## 教育課程委員会報告

# 「教育課程」に関する調査

- I 教育課程について
- Ⅱ 学校改革について
- Ⅲ 産学連携・地域連携について
- IV 学習指導・評価について

(令和7年10月)

# 目 次

	勺2
研究の経過	뤕 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
調査報告·	
I 孝	<b>枚育課程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3</b>
$\bigcirc$	調査目的
1	教育課程の実施について
(1	1) 編成上の基本的な考え方について
(2	2) 取り組む内容について
(3	3)卒業までの履修単位について
( <u>/</u>	1) 新学習指導要領における数学と理科の履修単位数について
(5	5)進学希望者の指導について
	6)大学入試について
,	7)ICT教育・情報化教育の取組について
, -	3) 遠隔システムについて
	9) GIGAスクール構想に伴う情報機器の整備について
(1	0)総合的な探究の時間について
2	3. <b>a</b> 7
	学校改革について · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
0	調査目的
	学校改革・活性化について
	り学校改革・学校活性化について
	2) 職員の意識改革について
	別長期休業期間について
	4) 学校目標・学校評価・グランドデザインについて
	まとめ
	<b>崔学連携・地域連携について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 1</b>
	調査目的 インターンシップについて
	1) インターンシップについて
,	2) 実施している学校の実施内容について
	3) インターンシップが実施できない理由について
•	1) 2 0 2 4 年度以降の実施対象者について
	デュアルシステムについて
	/ エ/パンパ/ Aにつく C L) デュアルシステムの実施について
,	2) デュアルシステムの実施内容について
,	3) デュアルシステムを実施していない学校の実施上の問題点について
3	地域との連携について
_	1) 生徒による地域活動について
	2) (1)を実施している学校の実施内容について
	3) 地域の力を生徒の技術指導に生かすことについて
	(3)を実施している学校の実施内容について
	5) 総合的な探究の時間(又は課題研究)における地域や外部機関との連携について

4 高・大学等連携について (1) 大学や専門学校等との連携の実施について (2) (1)を実施している学校の実施内容について 5 学校開放講座について (1) 学校開放講座の実施について (2) (1)を実施している学校の実施内容について 6 まとめ  IV 学習指導・評価について ① 調査目的 1 授業評価について (1) 生徒による授業評価について (2) 実施している学校の授業への還元について (3) 地域の人や保護者による授業評価について (4) 取り組んでいる学校の授業への還元について (4) 取り組んでいる学校の授業への還元について 2 学習評価の改善について (1) 学校全体での改善について
 (1) 字校全体での改善について (2) 改善のための体制づくりについて (3) 評価指標や評価方法について (4) 観点別評価について 3 まとめ と が き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

### ま え が き

全国工業高等学校長協会の教育課程委員会は、令和5年度に中国地区が担当を九州地区から引継ぎ、研究を開始し3年目となる。本委員会では、教育課程の編成、学校改革、産学連携、学習指導等についてアンケートを実施し、各学校がどのように工業教育を実践しているかを集約・分析し、今後の工業教育推進に資するように調査・研究を行うものである。

これまで、工業教育においては、平成7年に文部科学省が提唱した「スペシャリストへの道」をもとに、将来のスペシャリストの育成に取り組んできた。全国工業高等学校長協会では、平成17年度に「全国工業教育理念検討委員会」が最終報告をまとめ、工業教育の指針を示している。平成25年度から、高等学校学習指導要領に基づいて、専門高校では、①将来のスペシャリストの育成、②地域産業を担う人材の育成、③人間性豊かな職業人の育成に取り組んできた。そして、平成30年3月に改訂された高等学校学習指導要領が、年次進行で実施され、昨年度で完成年度を迎えた。

この度の調査は、新学習指導要領が全ての学年で実施されていることを考慮すると、各校においては、さらに新しい取組や実践がスタートしていることが考えられることから、これらについても調査・分析を行った。

本委員会では、年度初めのアンケート結果を地域別にまとめ、表とグラフで示すとともに、各アンケート項目についてコメントし、大項目ごとにその概要をまとめている。各会員校においては、将来の学校像を検討し、特色ある学校づくりや開かれた学校づくりを行う上で、この調査結果を参考にし、役立てていただければ幸いである。

委 員 長 広島県立広島工業高等学校長 河 野 幸 浩 副委員長 三 浦 喜 成 広島県立府中東高等学校長 副委員長 広島県立呉工業高等学校長 清水 爾 委 員 南場昌幸 広島県立福山工業高等学校長 委 員 髙 田伸司 広島県立三次青陵高等学校長 神田浩二 広島県立宮島工業高等学校長 委 員

令和7年10月

公益社団法人 全国工業高等学校長協会調査研究部 教育課程委員会

### 研究の目的

平成 30 年度に告示された新学習指導要領の年次進行での実施が今年度入学生で4年目を迎えた。各会員校においてはこれまでの取組の成果や課題を踏まえながら、「社会に開かれた教育課程」の実現や、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善など、新学習指導要領の理念に基づく改善を図り、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化への対応など、変化の激しい社会を主体的・創造的に生きる人材を育成するために教育課程全体を見直し、実施する大きな節目の時期となっている。

そこで教育課程委員会では、これまでの各会員校の工業教育の推進及び工業技術者の育成や新 学習指導要領への対応等について、全国の工業高等学校をはじめ工業系の高等学校に、以下の項 目についての現状調査を行い、その集約・分析を行った。

### <調査項目>

I 教育課程について

Ⅱ 学校改革について

Ⅲ 産学連携・地域連携について

IV 学習指導・評価について

### 研究の経過

令和6年11月13日 令和6年度第3回教育課程委員会開催

令和6年度の調査研究のテーマ、調査項目及び

アンケート内容についての検討

令和7年5月9日 令和7年度第1回教育課程委員会開催

令和7年5月初旬 会員校へのアンケート調査

令和7年7月1日 アンケートの集約と分析作業開始

令和7年7月~8月 アンケートの集約結果の検討と分析作業

アンケートの集約結果のまとめと研究報告書案作成

調査のまとめと研究報告書最終案の提出

令和7年8月22日 令和7年度第2回教育課程委員会開催

令和7年11月21日予定 令和7年度第3回教育課程委員会開催

令和8年度の調査研究についての検討

これらの調査は、全会員の校長を対象に、悉皆調査を行った。下表に回答状況を示す。

なお、調査項目によっては一部未回答の学校があり、設問によっては回答に重複を許している ため、各調査において合計の学校数が異なる。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近 畿	中国	四国	九州	合 計
対象校	19	74	112	48	68	69	60	27	105	582
回答数	19	74	111	47	68	68	60	27	105	579

### 調査報告

#### I 教育課程について

#### 〇 調査目的

令和4年度から新学習指導要領が年次進行で実施され、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて教育活動の充実・発展に資するため、各学校の教育課程への対応状況について調査した。また、進学希望者に対しての学習指導やICT機器の活用状況、情報化教育の取組についても調査した。

### 1. 教育課程の実施について

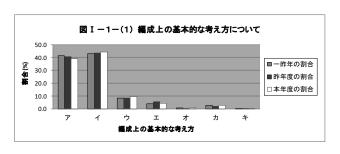
### (1)編成上の基本的な考え方について

編成上の基本的な考え方は何ですか。(2つ以内)

- ア 基礎的な学力の定着 イ 専門的な技術・技能教育の充実
- ウ キャリア教育の推進 エ 大学等進学希望者への対応
- オ グローバル化への対応 カ 産業界との連携 キ その他

表 I-1-(1)編成上の基本的な考え方について

	ア	1	ゥ	I	オ	カ	+	合計
北海道	12	15	7	2	2	0	0	38
東北	61	67	11	3	0	3	0	145
関東	79	95	19	14	4	3	0	214
北信越	37	40	10	1	0	5	0	93
東海	49	53	15	5	0	3	0	125
近 畿	40	57	16	7	0	5	1	126
中国	55	49	10	2	0	2	1	119
四国	22	22	5	5	0	0	0	54
九州	82	96	12	8	0	7	0	205
合 計	437	494	105	47	6	28	2	1119
本年度の割合	39. 1	44. 1	9.4	4. 2	0.5	2. 5	0. 2	100
昨年度の割合	40.6	43.3	8.3	5.4	0.3	2. 0	0.1	100
一昨年の割合	41.2	42.8	8.4	4.1	0.6	2. 5	0.3	100



ここ数年、傾向は大きく変わっておらず、「基礎的な学力の定着」が上昇傾向、「専門的な技術・技能教育の充実」が下降傾向にあるものの、これらの2項目が80%を占めている。近年は、基礎的な学力の定着が教育課程編成上の主たる課題といえる。

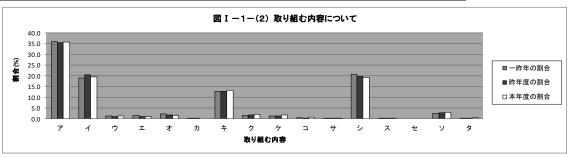
#### (2)取り組む内容について

教育課程の実施にあたって、特に取り組む内容は何ですか。(3つ以内)

- ア 基礎的・基本的な知識及び技術の確実な習得と活用 イ 学習習慣の確立
- ウ 伝統や文化に関する教育 エ 環境保全に関する教育
- オ 自他の生命を尊重する精神の涵養 カ 食育の推進 キ 安全教育の推進
  - 7 言語能力の育成 ケ 理数教育 コ 道徳教育 サ 外国語教育
- シ 職業教育 ス 主権者教育 セ 消費者教育 ソ 情報教育 タ その他

表I-1-(2) 取り組む内容について

	ア	イ	ウ	I	オ	'n	+	ク	ケ	П	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	合計
北海道	16	10	0	2	1	0	8	1	1	1	1	13	0	0	3	0	57
東北	72	39	2	5	3	0	27	3	2	1	0	40	0	0	3	1	198
関東	103	63	3	3	6	0	32	8	7	0	5	48	1	0	14	2	295
北信越	45	22	3	2	3	0	13	1	2	0	0	29	0	0	3	3	126
東海	63	31	1	0	2	0	32	2	5	2	0	33	0	0	3	0	174
近 畿	61	31	4	1	1	0	20	8	4	3	0	35	0	0	6	0	174
中国	59	30	3	3	2	0	27	1	1	1	0	32	0	0	4	0	163
四国	26	17	2	0	1	0	4	3	1	0	0	15	0	0	2	0	71
九 州	102	55	1	2	5	0	42	4	5	3	0	51	0	0	9	1	280
合 計	547	298	19	18	24	0	205	31	28	11	6	296	1	0	47	7	1538
本年度の割合	35.6	19.4	1. 2	1. 2	1.6	0.0	13.3	2. 0	1.8	0. 7	0.4	19. 2	0. 1	0.0	3. 1	0.5	100
昨年度の割合	35.4	20.5	1.1	1.1	1.9	0.1	12.8	1.9	1.3	0.4	0.4	19.7	0. 2	0.0	2. 9	0.4	100
一昨年の割合	35.8	18.9	1. 2	1.5	2. 2	0.1	12.8	1.6	1.2	0.5	0.4	20. 7	0. 1	0.0	2. 6	0.4	100



「基礎的・基本的な知識及び技術の確実な習得と活用」が主たる取組内容であり、「学習習慣の確立」「職業教育」がほぼ同様となり、その次に「安全教育の推進」が取り組まれている。

### (3) 卒業までの履修単位について

(学科・コースによって異なる場合は、単位数を代表的な学科・コースについて記入してください。)

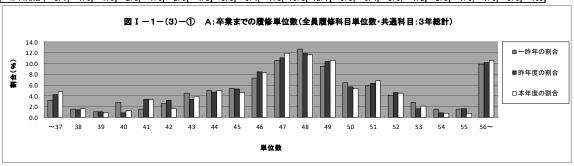
	全員履修和	斗目単位数	選択科目単位	拉数 (最大)	総合的な探究の	課題研究の
	共通科目	専門科目	共通科目	専門科目	時間の単位数	単位数
	共进科目	导门科日	共进科目	导门科日	(代替は含まない)	(代替を含む)
総計	(A) 単位	(B) 単位	(C) 単位	(D) 単位	(E) 単位	(F) 単位

# ① 卒業までの履修単位について(学科・コースによって異なる場合は代表的な学科・コースで回答)

#### A:全員履修科目単位数(共通科目)

表 I - 1 - (3) - ① A:卒業までの履修単位数(全員履修科目単位数・共通科目:3年総計)

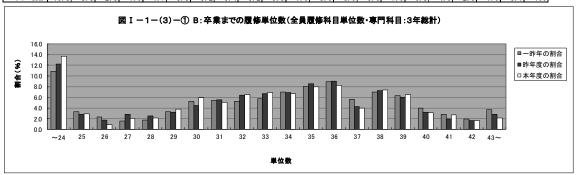
	~37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56~	合計
		30	৩৩		41	42	40	44	40	40	4/		49	50	01	ÜΖ	00		00	50~	
北海道	0	0	0	0	1	0	- 1	0	0	0	3	3	4	- 1	1	2	0	0	0	1	17
東北	3	1	0	1	3	2	0	0	2	4	7	11	8	4	12	4	3	0	0	8	73
関東	5	1	0	2	3	0	5	4	3	7	11	13	11	4	6	5	3	0	2	19	104
北信越	1	0	0	1	0	0	2	4	2	4	5	9	5	4	2	3	0	0	0	2	44
東海	1	5	0	1	3	0	5	7	3	8	10	4	1	4	5	3	0	1	1	6	68
近 畿	4	0	2	0	4	3	4	4	5	5	5	7	9	0	3	0	1	1	0	7	64
中国	5	0	0	2	4	0	1	1	3	6	10	4	7	3	4	2	0	0	1	5	58
四国	3	0	0	0	0	1	0	1	0	5	3	4	3	1	0	0	2	0	0	4	27
九州	5	2	3	0	0	3	4	7	8	7	13	10	11	9	5	6	3	2	0	7	105
合 計	27	9	5	7	18	9	22	28	26	46	67	65	59	30	38	25	12	4	4	59	560
本年度の割合	4. 8	1.6	0.9	1. 3	3. 2	1.6	3.9	5.0	4. 6	8. 2	12.0	11.6	10.5	5.4	6.8	4.5	2. 1	0. 7	0.7	10.5	100
昨年度の割合	4. 2	1.4	1.1	0.9	3. 3	3. 2	3.3	4. 7	5. 3	8. 4	11.1	12.0	10.4	5. 6	6.3	4.6	1.6	0. 9	1.6	10. 2	100
一昨年の割合	3. 1	1.6	1.0	2. 8	1.6	2. 6	4.5	5.0	5. 4	7. 3	10.6	12. 7	9. 5	6.4	5. 9	4. 2	2. 8	1. 6	1.6	9.9	100



### B:全員履修科目単位数(専門科目)

表 I - 1 - (3) - ① B:卒業までの履修単位数(全員履修科目単位数・専門科目:3年総計)

				7,10. 1							31311	_	1 40 81								
	~24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43~	合計
北海道	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	5	2	0	0	0	0	17
東北	10	1	0	1	1	2	3	5	6	2	7	8	7	6	6	1	1	0	2	3	72
関東	12	5	1	4	6	2	4	4	9	9	7	12	9	5	4	4	3	2	1	0	103
北信越	6	0	0	0	0	3	7	3	4	8	3	4	1	0	0	3	1	0	0	0	43
東海	11	1	1	2	2	1	4	2	3	3	3	1	5	4	4	7	5	2	3	3	67
近 畿	12	4	1	2	0	5	5	4	4	6	3	2	2	0	4	5	1	3	0	0	63
中国	7	0	0	2	3	4	4	3	5	3	3	5	6	0	4	4	1	2	2	0	58
四国	6	1	0	0	0	0	3	1	0	0	2	3	3	1	1	4	1	1	0	0	27
九州	10	3	1	0	0	4	3	6	4	7	8	7	13	4	13	6	4	5	1	6	105
合 計	76	16	5	11	12	21	33	28	36	38	37	44	46	22	41	36	17	15	9	12	555
本年度の割合	13.7	2. 9	0.9	2.0	2. 2	3.8	5. 9	5.0	6.5	6.8	6. 7	7. 9	8. 3	4. 0	7.4	6. 5	3. 1	2.7	1.6	2. 2	100
昨年度の割合	12. 2	2.8	1.8	2.8	2. 5	3. 2	4.4	5. 5	6.4	6.7	6. 9	8. 5	9. 0	4. 3	7.3	6. 0	3. 2	2. 0	1.6	2. 8	100
一昨年の割合	10.8	3. 3	2. 3	1.6	1. 7	3. 3	5. 2	5.4	5. 2	5.8	7. 0	8.0	8. 9	5.6	7.0	6. 3	4. 0	2.8	1.9	3.7	100

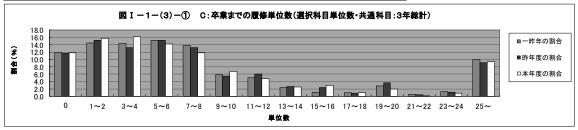


24単位以下が一昨年比2.9ポイント上昇の13.7%を占め、35単位、36単位は8%前後で減少傾向にある。

### C:選択科目の単位数(最大)【共通科目】

表 I - 1 - (3) -① C:卒業までの履修単位数(選択科目単位数・共通科目:3年総計)

		0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13~14	15~16	17~18	19~20	21~22	23~24	25~	合計
北海	道	4	4	3	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	15
東	北	7	19	7	14	5	1	2	2	2	0	0	0	0	7	66
関	東	11	8	19	20	8	7	6	3	3	1	3	1	1	9	100
北信	越	1	5	7	4	12	5	1	1	2	1	0	0	1	3	43
東	海	10	4	10	4	11	2	4	3	1	0	2	0	1	5	57
近	畿	5	4	12	9	7	6	4	1	3	0	3	0	0	6	60
中	玉	7	6	5	7	5	4	5	1	1	2	0	0	0	6	49
四四	王	1	6	4	1	3	3	0	1	2	0	1	0	1	3	26
九	州	13	23	14	12	8	5	2	1	1	1	0	0	0	6	86
合	計	59	79	81	71	59	34	24	13	15	5	10	1	4	47	502
本年度 <i>σ</i>	割合	11.8	15.7	16.1	14.1	11.8	6.8	4.8	2. 6	3.0	1.0	2. 0	0. 2	0.8	9.4	100
昨年度 <i>σ</i>	割合	11. 7	15. 1	13. 2	15. 1	13. 2	5.4	6.0	2. 7	2. 3	0.8	3.7	0.4	1. 2	9. 1	100
一昨年の	割合	11.9	14.6	14.4	15. 1	13.8	5.9	5. 1	2. 5	1.1	0.9	2. 8	0.6	1.3	10.0	100

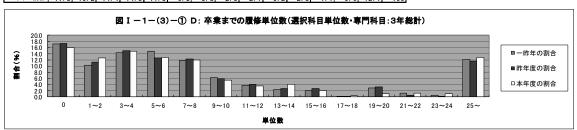


 $1 \sim 8$  単位に設定している学校が多く、特に  $3 \sim 4$  単位の選択科目の単位数が2.9ポイントも上昇している。また、選択科目の幅を広げるという観点から25 単位以上設けている学校も9.4%ある。一方、選択科目を設けていない学校も11.8%ある。

### D:選択科目の単位数(最大)【専門科目】

表 I - 1 - (3) - ① D:卒業までの履修単位数(選択科目単位数・専門科目:3年総計)

		0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13~14	15~16	17~18	19~20	21~22	23~24	25~	合計
北洲	毎道	6	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	15
東	北	11	16	9	7	3	1	2	1	2	0	0	0	0	12	64
関	東	16	14	16	16	8	8	3	2	1	0	1	2	2	11	100
北位	言越	1	4	4	8	12	2	1	1	1	0	1	1	1	5	42
東	海	10	2	10	6	9	1	4	2	1	0	1	1	1	9	57
近	畿	5	6	9	6	7	5	1	7	4	1	0	1	1	8	61
中	玉	9	3	6	8	7	1	4	2	0	1	1	0	0	8	50
四	玉	2	6	5	3	2	3	0	2	1	0	1	0	0	1	26
九	州	20	11	14	9	11	5	3	2	0	0	0	0	0	8	83
合	計	80	63	74	64	60	27	18	20	10	2	5	6	5	64	498
本年度	の割合	16.1	12.7	14.9	12.9	12.0	5.4	3.6	4.0	2. 0	0.4	1.0	1. 2	1.0	12. 9	100
昨年度	の割合	17.3	11.3	15.0	12.7	12. 3	6.0	4. 0	2. 7	2. 7	0. 2	3.3	0.6	0. 2	11.7	100
一昨年	の割合	17.3	10.2	14.4	14.8	11.8	6.3	3.8	2. 5	2. 1	0.2	2. 8	1.1	0.6	12. 1	100

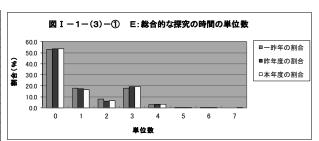


 $1 \sim 8$ 単位設定している学校が多く、選択科目の幅を広げるという観点から25単位以上設けている学校も12.9%と上昇している。一方、選択科目を設けていない学校も16.1%ある。

#### E:総合的な探究の時間の単位数(代替は含まない)

表 I - 1 - (3) - ① E:総合的な探究の時間の単位数

	0	1	2	3	4	5	6	7	合計
北海道	7	3	1	4	1	0	0	0	16
東北	32	9	8	9	5	0	1	0	64
関東	53	24	3	15	1	0	1	0	97
北信越	25	4	0	8	1	1	0	1	40
東海	39	2	3	14	2	0	0	0	60
近 畿	25	5	11	16	0	0	1	0	58
中国	10	20	6	13	2	0	0	0	51
四国	18	3	0	3	0	0	0	0	24
九州	55	11	1	13	3	1	0	0	84
合 計	264	81	33	95	15	2	3	1	494
本年度の割合	53.4	16.4	6.7	19. 2	3. 0	0.4	0.6	0. 2	100
昨年度の割合	53.7	17.3	5. 9	19.1	3.3	0. 2	0.4	0.0	100
一昨年の割合	53.0	17. 6	7.8	17. 8	2.8	0.6	0.4	0.0	100

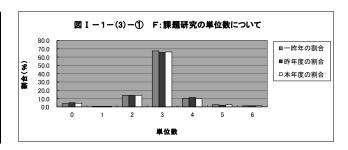


「総合的な探究の時間」を実施しない学校が53.4%あり、「課題研究」の代替で対応している状況が半数以上となっている。

### F:課題研究の単位数(代替を含む)

表 I - 1 - (3) - ① F:課題研究の単位数について

	0	1	2	3	4	5	6	合計
北海道	0	1	5	8	2	0	0	16
東北	4	1	12	47	6	1	0	71
関東	6	0	13	68	15	0	3	105
北信越	3	0	2	34	3	1	0	43
東海	1	0	9	50	3	0	1	64
近 畿	4	0	7	42	7	1	1	62
中国	2	0	16	30	6	2	0	56
四国	2	0	2	13	5	4	0	26
九州	3	0	11	68	9	4	2	97
合 計	25	2	77	360	56	13	7	540
本年度の割合	4.6	0.4	14. 3	66.7	10.4	2. 4	1.3	100
昨年度の割合	5.4	0. 2	13.9	65.6	11.4	2. 2	1.3	100
一昨年の割合	3.8	0. 2	14.1	67.6	10.5	2. 5	1.3	100

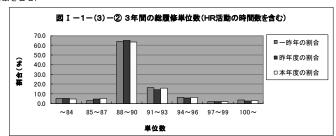


3単位の学校が66.7%と大半を占めている。

#### ② 3年間または4年間の履修総単位数について(HR活動の時間を含む)

表 I - 1 - (3) - ② 3年間の総履修単位数(HR活動の時間数を含む)

24.		(0)	•	0 1 16.	1 42 MO NS	( IV — I	- >> \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
		~84	85~87	88~90	91~93	94~96	97~99	100~	合計
北泊	毎道	0	1	13	3	0	1	1	19
東	北	4	3	55	4	6	1	0	73
関	東	5	10	63	13	7	0	9	107
北化	言越	2	0	28	12	2	1	1	46
東	海	3	4	44	9	6	0	1	67
近	畿	5	5	36	12	3	2	2	65
中	围	4	4	4	4	3	1	2	22
四	国	0	0	16	8	3	0	0	27
九	州	2	0	77	18	3	3	1	104
合	計	25	27	336	83	33	9	17	530
本年度	の割合	4. 7	5. 1	63.4	15.7	6. 2	1.7	3. 2	100
昨年度	の割合	5.4	4.8	65. 2	14.5	5. 5	1.9	2. 6	100
一昨年	の割合	5. 3	2. 9	63.9	16.2	6.0	2. 1	3.6	100

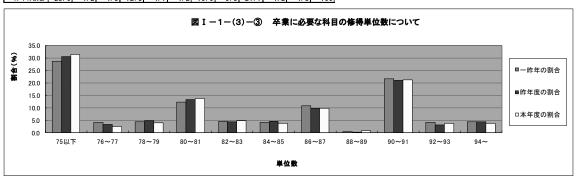


3年間または4年間の履修総単位数は88~90単位が63.4% (336校) と多くを占め、91単位 以上設定している学校は26.8% (142校) と2.2ポイント上昇している。

#### ③ 卒業に必要な科目の修得単位数について

表 I-1-(3)-3 卒業に必要な科目の修得単位数について

		75以下	76~77	78~79	80~81	82~83	84~85	86~87	88~89	90~91	92~93	94~	合計
北海	道	5	0	0	1	0	0	4	0	8	1	0	19
東	北	35	0	2	5	4	1	6	0	18	1	1	73
関	東	27	3	6	18	11	4	9	3	18	2	6	107
北信	越	9	2	2	5	3	1	3	0	13	6	2	46
東	海	26	4	2	14	2	5	6	0	3	3	2	67
近	畿	26	4	3	8	1	3	6	0	8	2	4	65
中	玉	18	2	2	8	2	0	8	1	15	0	2	58
四	玉	10	0	2	3	2	4	1	0	3	1	1	27
九	州	22	0	4	16	2	3	13	1	34	6	3	104
合	計	178	15	23	78	27	21	56	5	120	22	21	566
本年度0	D割合	31.4	2.7	4. 1	13.8	4.8	3.7	9.9	0.9	21.2	3.9	3. 7	100
昨年度0	D割合	30.6	3.5	4. 9	13.4	4. 3	4.7	9.9	0.3	21.0	3.1	4. 3	100
一昨年0	D割合	28.6	4. 2	4. 3	12.3	4.7	4. 2	10.9	0.5	21.7	4. 2	4. 3	100



「75単位以下」の学校が31.4% (178校) で最も多く、「90~91単位」が21.2% (120校)、「80~81単位」が13.4% (78校) と続いている。

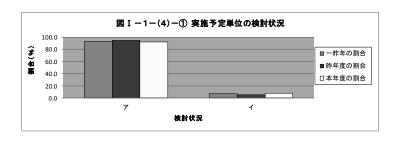
### (4) 新学習指導要領における数学と理科の履修単位数について

### ① 実施予定単位の検討状況について

実施予定単位の検討状況を教えてください。 ア 決定済 イ 検討中

表 I - 1 - (4) - ① 実施予定単位の検討状況

	ア	1	合計
北海道	18	1	19
東北	58	7	65
関東	88	8	96
北信越	41	3	44
東海	53	6	59
近 畿	55	3	58
中国	54	2	56
四国	25	0	25
九州	85	11	96
合 計	477	41	518
本年度の割合	92. 1	7. 9	100
昨年度の割合	94.6	5.4	100
一昨年の割合	93.0	7. 0	100



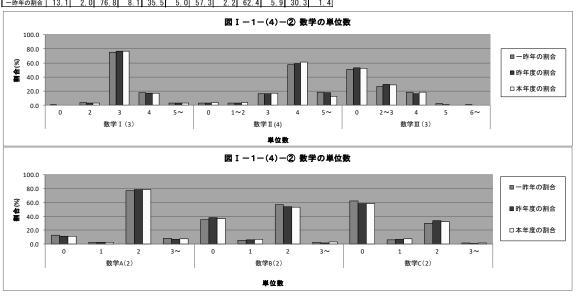
92.1%の学校が実施予定単位を決定済である。

### ② 数学の予定または決定の単位数をお答えください。

数学 I	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学 C
(A) 単位	(B) 単位	(C) 単位	(D) 単位	(E) 単位	(F) 単位

表 I - 1 - (4) -② 数学の単位数(各科目のかっこ内は標準単位数を示す)

		数章	学 I (3	3)			数	学Ⅱ(4	l)			数字	学皿 (3	3)	
	0	2	3	4	5 <b>~</b>	0	1~2	3	4	5~	0	2~3	4	5	6 <b>~</b>
北海道	0	0	12	7	0	0	0	2	13	4	8	0	2	0	0
東北	0	4	50	16	2	2	2	7	40	18	31	5	5	0	0
関東	0	3	83	19	3	4	6	31	53	11	32	30	24	0	0
北信越	0	2	37	6	0	0	1	5	34	5	13	8	11	0	0
東海	0	6	49	9	2	1	1	12	44	4	18	23	7	0	0
近 畿	0	1	55	6	1	3	6	10	33	9	23	14	12	0	0
中国	0	0	46	10	1	3	2	4	31	14	21	7	3	0	0
四国	0	0	21	5	1	1	0	6	18	2	10	9	3	0	0
九州	0	1	74	19	8	7	1	13	49	0	43	14	3	0	0
合 計	0	17	427	97	18	21	19	90	315	67	199	110	70	0	0
本年度の割合	0.0	3.0	76.4	17.4	3. 2	4. 1	3.7	17. 6	61.5	13.1	52.5	29.0	18.5	0.0	0.0
昨年度の割合	0.0	3. 1	76.5	16.9	3. 5	3. 3	3.5	16.4	58.8	18.0	52.8	30. 1	16.3	0.8	0.0
一昨年の割合	0. 2	3.7	74.9	17.9	3.3	3.6	3.6	16.5	57.6	18.5	51.3	27. 1	18. 9	2.4	0.3
									07.0						
	•	数学A				数学B	(2)	10.0	07.0	数学C					
	0	1	(2)	3~	0	数学B 1	2	3~	0		(2)	3~		1	
北海道	0 4	1 0	(2) 2 10	0	5	1	2 8	3~ 0	0 6		(2)				
東北	0 4 6	1 0 0	(2) 2 10 48	0 7	5 25	1 1 2	2 8 20	3~ 0 0	0 6 29	数学C 1 1	(2) 2 2 11	3~ 1 1			
東北関東	0 4 6 15	1 0 0 4	(2) 2 10 48 72	0 7 6	5 25 31	1 1 2 3	2 8 20 47	3~ 0 0 3	0 6 29 41	数学C 1 1 1 3	(2) 2 2 11 35	3~ 1 1 2			
東 北 関 東 北信越	0 4 6 15 3	1 0 0 4 2	(2) 2 10 48 72 39	0 7 6 6	5 25 31 6	1 1 2 3	2 8 20 47 32	3~ 0 0 3 0	0 6 29 41 19	数学C 1 1 1 3 3	(2) 2 2 11 35 11	3~ 1 1 2 0		<u> </u>	
東 北 関 東 北信越 東 海	0 4 6 15 3	1 0 0 4	(2) 2 10 48 72 39 40	0 7 6 6 3	5 25 31 6 17	1 1 2 3	2 8 20 47 32 25	3~ 0 0 3 0 2	0 6 29 41 19 23	数学C 1 1 1 3	(2) 2 11 35 11	3~ 1 1 2 0 2		<u> </u>	
東北原地震	0 4 6 15 3 8	1 0 0 4 2	(2) 2 10 48 72 39 40 43	0 7 6 6	5 25 31 6 17	1 2 3 1 5	2 8 20 47 32 25 34	3~ 0 0 3 0 2 2	0 6 29 41 19 23 23	数学C 1 1 1 3 3	(2) 2 11 35 11 17 23	3~ 1 1 2 0 2 0		<u> </u>	
東 期 北信 東 北信 東 近 畿 中 国	0 4 6 15 3 8 8	1 0 0 4 2 2 1	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41	0 7 6 6 3	5 25 31 6 17 14 15	1 2 3 1 5 1	2 8 20 47 32 25 34 12	3~ 0 0 3 0 2 2	0 29 41 19 23 23 21	数学C 1 1 3 3 4 1 7	(2) 2 11 35 11 17 23 6	3~ 1 1 2 0 2 0 0		<u> </u>	
東北東越海畿国中四四	0 4 6 15 3 8 8 4	1 0 0 4 2 2 1 1 0	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41 25	0 7 6 6 3 7 1	5 25 31 6 17 14 15	1 1 2 3 1 5 1 7 3	2 8 20 47 32 25 34 12 10	3~ 0 0 3 0 2 2 2 0	0 6 29 41 19 23 23 21 10	数学C 1 1 3 3 4 1 7	(2) 2 2 11 35 11 17 23 6	3~ 1 1 2 0 2 0		<u> </u>	
東関北東越福越国国州	0 4 6 15 3 8 8 4 1 6	1 0 0 4 2 2 1 1 0	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41 25 70	0 7 6 6 3 7 1 1	5 25 31 6 17 14 15 10 28	1 2 3 1 5 1 7 7 3 4	2 8 20 47 32 25 34 12 10	3~ 0 0 3 0 2 2 2 0 0	0 6 29 41 19 23 23 21 10 44	数学C 1 1 1 3 3 4 1 7 2	(2) 2 11 35 11 17 23 6 8	3~ 1 1 2 0 2 0 0 0		<u> </u>	
東関に東越海との地域を表現の大きな、東京は一の大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	0 4 6 15 3 8 8 4 1 6 55	1 0 0 4 2 2 1 1 0 2	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41 25 70 388	0 7 6 6 3 7 1 1 8 39	5 25 31 6 17 14 15 10 28 151	1 1 2 3 1 5 1 7 7 3 4 27	2 8 20 47 32 25 34 12 10 30 218	3~ 0 0 3 0 2 2 2 0 0 0 5	0 6 29 41 19 23 23 21 10 44 216	数学C 1 1 1 3 3 4 1 7 2 5	(2) 2 11 35 11 17 23 6 8 8 121	3~ 1 2 0 2 0 0 0 1 7			
東 北東	0 4 6 15 3 8 8 4 1 6 55	1 0 0 4 2 2 1 1 0 2 12 2.4	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41 25 70 388 78.5	0 7 6 6 3 7 1 1 1 8 39 7.9	5 25 31 6 17 14 15 10 28 151 37. 0	1 2 3 1 5 1 7 7 3 4 27 6. 6	2 8 20 47 32 25 34 12 10 30 218 53.4	3~ 0 0 3 0 2 2 0 0 5 12 2.9	0 6 29 41 19 23 23 21 10 44 216 58. 2	数学C 1 1 3 3 4 1 7 2 5 27 7.3	(2) 2 11 35 11 17 23 6 8 8 121 32.6	3~ 1 1 2 0 2 0 0 0			
東関に東越海との地域を表現の大きな、東京は一の大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	0 4 6 15 3 8 8 4 1 6 55	1 0 0 4 2 2 1 1 0 2	(2) 2 10 48 72 39 40 43 41 25 70 388	0 7 6 6 3 7 1 1 8 39	5 25 31 6 17 14 15 10 28 151	1 1 2 3 1 5 1 7 7 3 4 27	2 8 20 47 32 25 34 12 10 30 218	3~ 0 0 3 0 2 2 2 0 0 0 5	0 6 29 41 19 23 23 21 10 44 216	数学C 1 1 1 3 3 4 1 7 2 5	(2) 2 11 35 11 17 23 6 8 8 121	3~ 1 2 0 2 0 0 0 1 7			



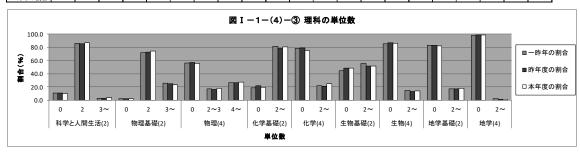
「数学 I」「数学 I」「数学 A」「数学 B」は標準単位数を履修する学校が多い。一方、「数学 III」「数学 C」を履修しない学校は半数以上ある。

### ③ 理科の予定または決定の単位数をお答えください。

科学と 人間生活	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学
(A) 単位	(B) 単位	(C)単位	(D)単位	(E) 単位	(F) 単位	(G) 単位	(H) 単位	(I)単位

表 I - 1 - (4) - ③ 理科の単位数(各科目のかっこ内は標準単位数を示す)

	科学と	と人間生:	活(2)	物	理基礎(2	2)		物理(4)		化学基	礎(2)	化学	2(4)	生物基	礎(2)	生物	1(4)	地学基	礎(2)	地学	: (4)
	0	2	3~	0	2	3~	0	2~3	4~	0	2~	0	2~	0	2~	0	2~	0	2~	0	2~
北海道	5	9	1	0	15	4	7	0	3	0	17	7	3	3	10	7	1	6	1	7	
東北	6	57	1	3	51	18	30	3	7	12	47	7	3	22	28	32	3	31	5	34	
関東	15	77	7	0	74	32	39	14	29	10	86	49	23	36	42	54	11	54	17	65	
北信越	1	39	1	0	31	15	12	10	7	3	36	17	9	11	18	19	6	19	7	22	
東海	10	48	3	1	48	12	15	14	14	10	47	29	12	26	23	32	9	36	5	38	
近 畿	7	48	2	2	51	6	21	8	13	10	40	29	7	17	31	31	5	29	11	34	
中国	3	50	0	2	41	6	19	3	4	8	33	22	2	13	19	20	2	22	3	21	
四国	1	24	1	2	18	7	10	4	6	5	18	13	6	11	8	15	2	12	5	15	
九州	4	94	2	2	68	26	40	6	12	28	37	46	9	42	16	49	3	51	3	52	
合 計	52	446	18	12	397	126	193	62	95	86	361	219	74	181	195	259	42	260	57	288	
本年度の割合	10.1	86.4	3.5	2. 2	74. 2	23.6	55. 1	17.7	27. 1	19.2	80.8	74. 7	25.3	48. 1	51.9	86.0	14.0	82. 0	18.0	98.3	1
作年度の割合	11. 2	85.4	3.4	2.0	72. 9	25. 1	56.8	16.7	26.5	21.8	78. 2	78. 9	21.1	48.6	51.4	86.7	13.3	83. 2	16.8	98. 7	1
-昨年の割合	10.6	86. 1	3. 2	2. 5	71. 7	25. 7	56. 6	17. 0	26.4	19.1	80. 9	78. 0	22. 0	44. 5	55. 5	85.0	15.0	82. 6	17. 4	97. 7	2



「科学と人間生活」を2単位履修する学校が最も多く、続いて「化学基礎」を2単位履修する学校の順となっている。一方、「地学」「生物」は約9割の学校が履修していない。

### (5) 進学希望者の指導について

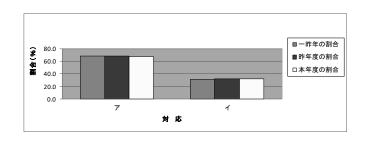
#### ① 教育課程上の対応について

進学希望者の指導について教育課程上の対応をしていますか。

ア はい イ いいえ

表 I - 1 - (5) - ① 対応について

24.	,	•	,,,,o.,-	-
	ア	1	合計	
北海道	10	9	19	
東北	46	28	74	
関東	75	35	110	
北信越	36	10	46	
東海	46	21	67	
近 畿	51	14	65	
中国	35	25	60	
四国	25	2	27	
九 州	64	41	105	
合 計	388	185	573	
本年度の割合	67.7	32. 3	100	
昨年度の割合	68. 1	31.9	100	
一昨年の割合	68.7	31.3	100	



67.7%の学校は教育課程上の対応をしているが、一昨年から減少傾向にある。

### ② ①でアと回答した学校について

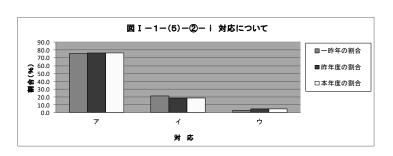
i どのような対応をしていますか。(複数回答可)

ア 選択教科 イ コース又は類型で指導

ウ その他

表 I - 1 - (5) - ② - i 対応について

表1-1-	(5)	-( <u>2</u> )-	1 对	心につ	,,
	ム	ノ	ļ.	合計	
北海道	10	1	1	12	
東北	45	8	2	55	
関東	67	13	2	82	
北信越	34	5	2	41	
東海	36	12	2	50	
近 畿	38	17	3	58	
中国	29	5	2	36	
四国	17	10	0	27	
九 州	52	- 11	6	69	
合 計	328	82	20	430	
本年度の割合	76.3	19.1	4. 7	100	
昨年度の割合	76.3	19.1	4. 7	100	
一昨年の割合	75.6	21.4	2. 9	100	



「選択教科」(76.3%)で対応している学校が多くを占めるものの、「コース又は類型で指導」(19.1%)も一定数ある。

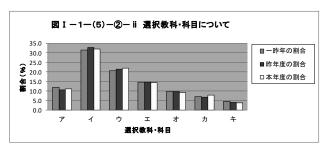
i でアと回答した場合の選択教科・科目名(複数回答可)

ア 国語 イ 数学 ウ 英語 工 物理 才 化学

カ 地歴・公民 キ その他

表 I - 1 - (5) - ② - ii 選択数科・科目について

表 1 - 1 - (5) - ② - Ⅱ 選択教科・科目について												
	ア	1	ن ر	I	オ	カ	+	合計				
北海道	4	10	6	2	4	5	2	33				
東北	14	43	29	18	12	15	7	138				
関東	23	69	34	41	29	24	7	227				
北信越	12	34	22	14	6	6	4	98				
東海	9	36	31	22	9	8	4	119				
近 畿	12	37	25	16	9	4	2	105				
中国	12	28	26	10	8	5	3	92				
四国	7	17	15	7	4	3	2	55				
九州	18	51	34	16	11	8	8	146				
合 計	111	325	222	146	92	78	39	1013				
本年度の割合	11.0	32. 1	21.9	14.4	9. 1	7.7	3.8	100				
昨年度の割合	10.6	32.8	21.4	14.7	9. 6	6.8	4. 0	100				
一昨年の割合	11. 9	31.6	20.7	14.7	9. 6	7. 0	4. 6	100				



「数学」が最も多く、続いて「英語」「物理」「国語」の順となっている。

iii i でアと回答した場合の進学を考慮した3年間での選択教科・科目の単位数

ア 4単位以下

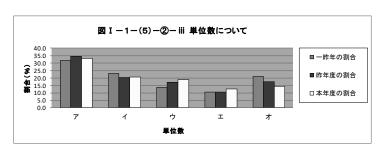
イ 6単位以下

ウ 8単位以下 エ 10単位以下

オ 11単位以上

表 I - 1 - (5) - ② - iii 単位数について

	ア	1	ウ	I	オ	合計
北海道	7	0	0	1	2	10
東北	22	8	2	4	8	44
関東	22	20	9	8	10	69
北信越	9	10	10	3	3	35
東海	10	7	11	4	6	38
近 畿	9	8	7	8	7	39
中国	7	7	4	6	5	29
四国	7	0	4	3	4	18
九州	19	10	17	5	4	55
合 計	112	70	64	42	49	337
本年度の割合	33. 2	20.8	19.0	12.5	14. 5	100
昨年度の割合	34.5	20.3	17. 2	10.5	17. 5	100
一昨年の割合	31.7	23. 3	13.7	10.5	20. 9	100



「4単位以下」が33.2% (112校)で最も多く、続いて「6単位以下」「8単位以下」の順となっている。

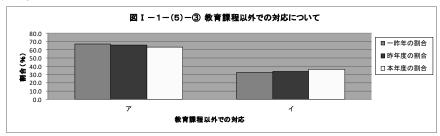
### ③ 教育課程以外の対応について

教育課程以外で何か対応していますか。

ア はい イ いいえ

表 I -1- (5) -③ 教育課程以外での対応について





教育課程以外で対応している学校が63.4%ある。一方で、教育課程で対応している学校は、 一昨年比3.9ポイント上昇の36.6%と上昇傾向にある。

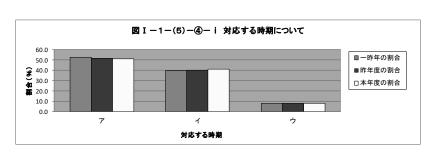
### ④ ③でアと回答した学校について

i どの時期に対応をしていますか。(複数回答可)

ア 早朝もしくは放課後の課外授業で対応 イ 長期休業中 ウその他

表 I -1- (5) - ④- i 対応する時期について

	ア	1	ウ	合計
北海道	11	8	2	21
東北	42	38	5	85
関東	41	35	10	86
北信越	23	18	2	43
東海	30	20	7	57
近 畿	30	24	2	56
中 国	30	18	4	52
四国	20	18	0	38
九 州	37	33	11	81
合 計	264	212	43	519
本年度の割合	50.9	40.8	8. 3	100
昨年度の割合	51.7	40.3	8. 0	100
一昨年の割合	52. 5	39.5	8.0	100



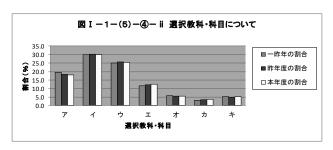
「早朝もしくは放課後の課外授業」「長期休業中」に対応している学校が多い。

ii i でアと回答した場合の選択教科・科目名(複数回答可)

ア 国語 イ 数学 ウ 英語 エ 物理 オ 化学

カ 地歴・公民 キ その他

表 1 - 1 - (5) - ④ - = 選択教科・科目について								
	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	合計
北海道	8	14	13	8	6	4	2	55
東北	34	47	44	17	8	6	9	165
関東	27	47	35	19	11	7	9	155
北信越	13	26	22	10	4	1	4	80
東海	12	33	27	13	3	2	6	96
近 畿	21	33	29	13	6	4	10	116
中国	20	31	27	10	5	3	2	98
四国	16	21	19	12	7	6	3	84
九 州	25	43	32	21	3	3	7	134
合 計	176	295	248	123	53	36	52	983
本年度の割合	17. 9	30.0	25. 2	12.5	5. 4	3.7	5. 3	100
昨年度の割合	18. 2	30.4	25.7	12. 1	5.4	3.3	4. 9	100
一昨年の割合	19.6	29.8	25. 1	11.5	5. 9	3.0	5. 1	100



対応している教科・科目は「数学」が最も多く、続いて「英語」「国語」の順となっている。

#### (6) 大学入試について

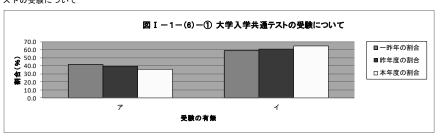
### ① 大学入学共通テストについて

大学入試共通テストを受験していますか。

ア はい イ いいえ

表 I-1-(6)-1 大学入学共通テストの受験について

	ア	イ	合計
北海道	6	12	18
東北	26	47	73
関東	48	62	110
北信越	19	27	46
東海	32	35	67
近 畿	23	41	64
中国	9	51	60
四国	12	14	26
九 州	26	78	104
合 計	201	367	568
本年度の割合	35.4	64.6	100
昨年度の割合	39. 2	60.8	100
一昨年の割合	41.2	58.8	100



大学入学共通テストを受験している学校は35.4%と一昨年比5.8ポイント減少している。

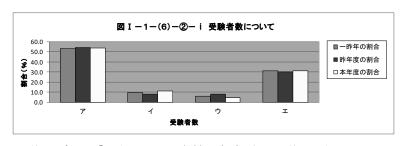
### ② ①でアと回答した学校について

i 昨年度の受験者は何名ですか。(過年度卒も含む)

ア 5名以内 イ 6名から10名 ウ 11名以上 エ 21名以上

表 I - 1 - (6) - ② - i 受験者数について





「5名以内」の学校の割合(53.5%)が多く、「21名以上」の学校の割合(31.0%)が続いている。

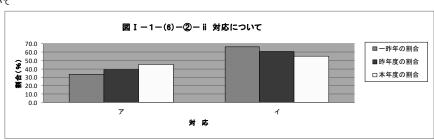
### ii どのような対応をしていますか。

ア 教育課程上で対応

イ 教育課程以外で対応

表 I - 1 - (6) - ② - ii 対応について

	ア	イ	合計
北海道	3	3	6
東北	9	16	25
関東	19	27	46
北信越	7	12	19
東海	16	16	32
近 畿	9	13	22
中国	8	4	12
四国	9	5	14
九 州	11	15	26
合 計	91	111	202
本年度の割合	45.0	55.0	100
昨年度の割合	39.0	61.0	100
一昨年の割合	33.8	66. 2	100



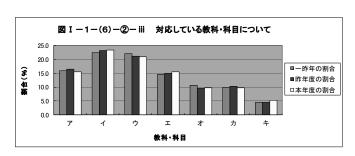
教育課程以外で対応している学校が55.0%あるものの、教育課程上で対応している学校は、 一昨年度比11.2ポイント上昇している。 iii 対応している場合の教科・科目名(複数回答可)

ア国語 イ 数学 ウ 英語 エ 物理 オ 化学

カ 地歴・公民 キ その他

表 I - 1 - (6) - ② - iii 対応している教科・科目について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	合計
北海道	4	5	5	5	4	4	2	29
東北	19	22	21	13	11	11	6	103
関東	30	42	40	31	20	19	9	191
北信越	8	19	15	9	5	2	3	61
東海	20	27	27	16	13	15	12	130
近 畿	10	21	14	12	6	8	2	73
中国	5	6	7	5	2	3	1	29
四国	10	12	10	9	5	5	1	52
九州	13	24	21	18	8	8	4	96
合 計	119	178	160	118	74	75	40	764
本年度の割合	15.6	23.3	20.9	15.4	9. 7	9.8	5. 2	100
昨年度の割合	16.5	23. 2	21.0	14.9	9.6	10.3	4. 5	100
一昨年の割合	15. 9	22. 4	22. 1	14.5	10. 7	9. 9	4. 6	100



「数学」が最も多く、続いて「英語」「国語」「物理」の順となっている。

### iv 実際に受験した教科・科目名(複数回答可)

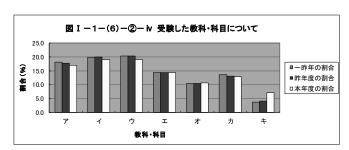
ア 国語 イ 数学 ウ 英語

エ 物理 オ 化学

カ 地歴・公民 キ その他

表 I - 1 - (6) - ② - iv 受験した教科·科目について

	ア	1	ゥ	エ	オ	カ	+	合計
北海道	5	6	6	4	4	5	3	33
東北	24	24	24	17	17	20	12	138
関東	35	38	40	31	22	25	10	201
北信越	15	19	17	12	11	10	9	93
東海	25	25	27	19	18	19	12	145
近 畿	17	20	20	15	8	13	4	97
中国	5	6	6	6	3	5	1	32
四国	11	12	11	8	5	6	4	57
九州	20	25	25	20	11	16	10	127
合 計	157	175	176	132	99	119	65	923
本年度の割合	17. 0	19.0	19.1	14.3	10.7	12. 9	7. 0	100
昨年度の割合	17. 7	20.0	20.3	14.4	10.5	13.0	4. 2	100
一昨年の割合	18.0	19.7	20.3	14.3	10.4	13.6	3.7	100



「英語」「数学」が多く、続いて「国語」「物理」「地歴・公民」の順となっている。

### (7) ICT教育・情報化教育の取組について

#### ① ICT機器の活用について

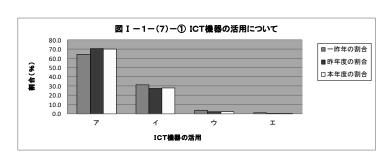
工業専門科目の座学で、ICT機器の活用についてお答えください。

ア よく活用している イ 少し活用している ウ あまり活用していない

エ 全く活用していない

表 I - 1 - (7) - ① ICT機器の活用について

	ア	1	ウ	I	合計
北海道	14	5	0	0	19
東北	52	21	1	0	74
関東	80	27	2	0	109
北信越	30	16	0	0	46
東海	48	17	1	0	66
近 畿	45	18	2	0	65
中国	40	17	2	0	59
四国	24	3	0	0	27
九 州	66	35	2	1	104
合 計	399	159	10	1	569
本年度の割合	70.1	27. 9	1.8	0.2	100
昨年度の割合	70.4	27. 3	1.9	0.3	100
一昨年の割合	64.5	31.4	3.4	0.7	100



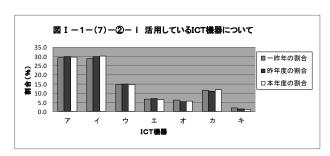
「よく活用している」が70.1%、「全く活用していない」が0.2%となっており、座学における ICT機器の活用は着実に進んでいる。

### ② ①でア、イと回答した学校について

i 活用しているICT機器についてお答えください。活用方法ではありません。(複数回答可) ア プロジェクタ イ タブレット ウ 電子黒板 エ スマートフォン オ デジタルカメラ (ビデオ) カ 書画カメラ (実物投影機) キ その他

表 I-1-(7)-②-i 活用している ICT機器について

	ア	ノ	ڻ ب	Н	4	カ	+	合計
北海道	18	19	2	5	4	3	0	51
東北	63	69	31	18	13	27	4	225
関東	97	95	45	41	18	44	3	343
北信越	46	43	27	4	13	18	3	154
東海	64	65	16	13	8	27	0	193
近 畿	61	59	30	14	11	21	1	197
中国	52	51	18	5	8	18	5	157
四国	22	25	19	4	10	8	1	89
九 州	86	94	63	10	14	37	3	307
合 計	509	520	251	114	99	203	20	1716
本年度の割合	29.7	30.3	14.6	6.6	5. 8	11.8	1. 2	100
昨年度の割合	30.0	30.0	14. 9	7. 0	5. 4	11.1	1.5	100
一昨年の割合	29.4	28.7	14. 7	6. 9	6.3	11.7	2. 2	100

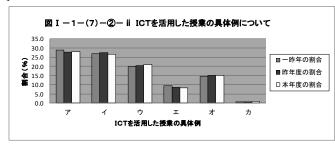


プロジェクタやタブレットの活用が増加しており、GIGAスクール構想の下でのICT環境整備の 効果があらわれている。

- ii ICTを活用した授業の具体例についてお答えください。(複数回答可)
  - ア プロジェクタ, 書画カメラによる教材提示
  - イ タブレット,スマートフォンを活用しての資料検索や調べ学習
  - ウ タブレットを活用したプレゼンテーションや意見発表
  - エ デジタルカメラ、ビデオを活用した動画提示
  - オ タブレット,スマートフォンを活用した個別学習 カ その他

表 I - 1 - (7) - ② - ii I C T を活用した授業の具体例について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	合計
北海道	18	19	14	5	12	1	69
東北	68	67	54	24	48	1	262
関東	101	93	69	26	54	4	347
北信越	45	42	34	18	22	2	163
東海	64	65	56	15	31	1	232
近 畿	60	56	44	19	27	1	207
中国	54	51	34	15	28	4	186
四国	26	24	20	13	13	1	97
九州	90	84	69	22	49	2	316
合 計	526	501	394	157	284	17	1879
本年度の割合	28.0	26.7	21.0	8.4	15.1	0.9	100
昨年度の割合	27.8	27. 4	20.4	8.6	15.0	0.8	100
一昨年の割合	28.8	27. 0	19.8	9.3	14.5	0.6	100



#### その他

- ・Google Classroomを活用した課題提出など
- ・タブレットを活用して、実験結果のデータ整理
- ・タブレット、スマートフォンを活用した小テスト ・タブレットを活用し、電子黒板で教材提示
- ・大型ディスプレイによる教材提示・タブレットで課題の配信・オンライン学習

「プロジェクタ、書画カメラによる教材提示」「タブレット、スマートフォンを活用しての資 料検索や調べ学習」・「タブレットを活用したプレゼンテーションや意見発表」の順に活用されて おり、「タブレット、スマートフォンを活用した個別学習」も増加傾向にある。

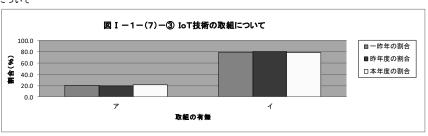
#### ③ IoT技術について

IoT技術についての取組はありますか。

イ いいえ アはい

表 I - 1 - (7) - ③ IoT技術の取組について

		ア	1	合計
北洋	事道	8	11	19
東	北	17	57	74
関	東	19	90	109
北信	[越	18	28	46
東	海	13	54	67
近	畿	13	52	65
中	玉	13	47	60
四	王	8	19	27
九	州	12	91	103
合	計	121	449	570
本年度	の割合	21. 2	78.8	100
昨年度	の割合	19.9	80.1	100
一昨年	の割合	20.7	79.3	100



取り組んでいる学校は21.2%である。

### ④ ③でアと回答した学校について

具体的な取組をお答えください。(主なものを記載)

- マイコン制御
- ・スマート農業(ビニルハウスの管理、水耕栽培)
- ・BIM/CIMを活用した情報授業と実習
- ・産業用ロボットの制御学習
- ・教室の二酸化炭素濃度測定
- ・ラズベリーパイを活用したIoT実習
- Wi-Fiに接続された電球点灯回路のPCでのオンオフ制御
- ・課題研究の中で、遠隔地の気象情報収集
- ・MESHを活用した学習(温度・湿度センサ値を自動記録)
- Arduinoを活用した制御実習
- M5Stackを使っての制御実習
- 疑似的なインターネット環境でブラウザからの機器制御
- ・スマホでIot機器を制御
- ・害獣、農業との関連技術に関すること
- 作成プログラムをインターネットを介してのドローン飛行
- chromebookを用いた遠隔操作によるLED発光

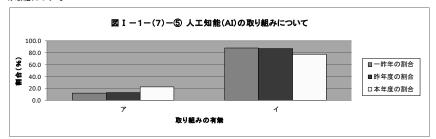
#### ⑤ 人工知能(AI)について

人工知能(AI)についての取組はありますか。

イ いいえ

表 I - 1 - (7) - ⑤ 人工知能 (A I) の取組について





取り組んでいる学校は、昨年度比9.6ポイントと増加傾向にある。

### ⑥ ⑤でアと回答した学校について

具体的な取組をお答えください。(主なものを記載)

- ・画像認識や音声認識AIを活用したスマート制御システムの開発 ・CANVAを使ったチラシ・ポスターの制作
- プログラミングの原型をチャットGPTで成形
- · 生成A I 画像作成
- ・音声によるロボット制御
- ・課題研究で画像認識・物体認識の活用
- A I カメラを用いて人体感知ナンバー識別等を研究
- ・Canvaによる画像、動画、音声生成、文章作成
- ・ChatGPT、Gemini、CANVA、Copilotの活用
- ・音楽に合わせて動く3Dモーションの制作

#### (8) 遠隔システムについて

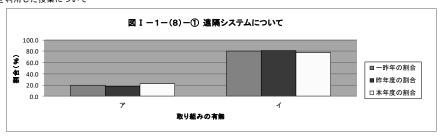
### ① 遠隔システムの利用について

遠隔システムを利用した授業を行っていますか。

はい イ いいえ

表 I-1-(8)-① 遠隔システムを利用した授業について

	ア	1	合計
北海道	6	13	19
東北	9	64	73
関東	28	81	109
北信越	16	30	46
東海	19	48	67
近 畿	14	51	65
中国	12	48	60
四国	6	21	27
九州	17	86	103
合 計	127	442	569
本年度の割合	22. 3	77.7	100
昨年度の割合	18.3	81.7	100
一昨年の割合	20.0	80.0	100



取り組んでいる学校が22.3%と昨年度比4.0ポイント上昇している。

### ② ①でアと回答した学校について

具体的な状況をお答えください。(主なものを記載)

- ・探究授業等で複数クラス同時展開で行う際に使用
- 建築科・土木科の現場見学
- ・企業や大学による授業や学級閉鎖時の授業配信
- ・長期入院、不登校傾向の生徒に実施

臨時休業や学級閉鎖等の対応でオンライン学習をしたとの記述が多く、入院中や不登校の生 徒に対する学習保障として遠隔授業を行っている学校もある。企業や情報センター及び海外と のリモート授業等の活用もみられる。遠隔システムの中で多かったのが「Google Classroom」 「Google Meet」「Google Workspace for Education」「ZOOM」「Microsoft Teams」など多種に わたっている。

### (9) GIGAスクール構想に伴う情報機器の整備について

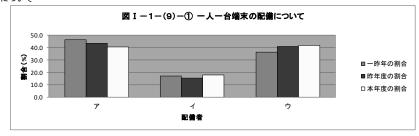
#### ① 情報機器の整備について

あなたの学校では一人一台端末をどのように配備していますか。

- ア 設置者(都道府県等)が配備してくれる
- イ 設置者(都道府県等)が一部補助金を配り、個人あるいは学校単位で購入する
- ウ BYOD (生徒が自分の個人用端末を持ち込み) で使用する

表 I-1-(9)-① 一人一台端末の配備について

	ア	7	<del>ن</del>	合計
北海道	0	0	19	19
東北	38	14	20	72
関東	15	28	66	109
北信越	28	5	13	46
東海	32	7	27	66
近 畿	26	5	33	64
中国	16	19	25	60
四国	20	4	3	27
九州	53	20	29	102
合 計	228	102	235	565
本年度の割合	40.4	18. 1	41.6	100
昨年度の割合	43.4	15.6	41.0	100
一昨年の割合	46.4	17. 2	36.5	100



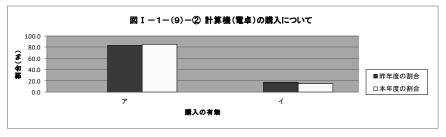
一昨年追加した項目である。本年度は、BYODで使用する学校が41.6%となり、初めて設置 者による配備の40.4%を超え、生徒が自分の個人用端末を使用する傾向が増加している。

### ② 計算機(電卓)の購入について

①に伴い今まで活用していた計算機(電卓)を生徒に購入させますか。 ア はい イ いいえ

表 I-1-(9)-② 計算機(電卓)の購入について





購入させている学校が85.0%で、昨年より増加している。

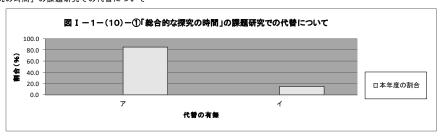
### (10) 総合的な探究の時間について

①「総合的な探究の時間」すべてを課題研究で代替していますか。

ア はい イ いいえ

表 I-1-(10) 「総合的な探究の時間」の課題研究での代替について

	ア	ト	合計
北海道	4	5	9
東北	47	26	73
関東	76	32	108
北信越	32	14	46
東海	47	20	67
近 畿	32	32	64
中国	25	34	59
四国	21	5	26
九州	76	25	101
合 計	360	193	553
本年度の割合	65. 1	34.9	100
昨年度の割合	-	-	-
一昨年の割合	1	-	-



今年度新規に追加した項目である。課題研究以外に、34.9%の学校が総合的な探究の時間を 実施している。

### ② ①でイと回答した学校について

「課題研究」の時間以外に1年次2年次に「総合的な探究の時間」において、どのような内 容を実施していますか。(主なものを記載)

- ・大学や企業と連携したアントレプレナーシップ教育・「人物探究」、「進路探究」、「技術探究」
- · 郷土探究、地域探究、地域防災
- ・進路、職業、科学技術に関する探究活動
- ・工業科で学ぶ意義や課題解決型(PBL)の取組・SDGsに関係した探求活動

1年次、2年次においては、キャリア教育に関する内容が多くを占めており、各学校が地域 の資源や人材を活用して、特色ある教育活動を実施している。

### 2 教育課程についてのまとめ

(1) 編成上の基本的な考え方について

ここ数年、傾向は大きく変わっておらず、「基礎的な学力の定着」が上昇傾向、「専門的な技 術・技能教育の充実」が下降傾向にあるものの、これらの2項目が80%を占めている。近年は、 基礎的な学力の定着が教育課程編成上の主たる課題といえる。

(2) 取り組む内容について

「基礎的・基本的な知識及び技術の確実な習得と活用」が主たる取組内容であり、「学習習慣 の確立」「職業教育」がほぼ同様となり、その次に「安全教育の推進」で取り組まれている。

(3) 卒業までの履修単位について

全員履修科目単位数(専門科目)については、24単位以下が一昨年比2.9ポイント上昇の13.7%

を占め、35単位、36単位は8%前後で減少傾向にある。 卒業までの履修単位数(選択科目単位数・共通科目:3年総計)は、1~8単位に設定している学校が多く、特に3~4単位の選択科目の単位数が2.9ポイントも上昇している。また、選択 科目の幅を広げるという観点から25単位以上設けている学校も9.4%ある。一方、選択科目を設 けていない学校も11.8%ある。

「総合的な探究の時間」を実施しない学校が53.4%あり、「課題研究」の代替で対応している 状況が半数以上となっている。その課題研究の単位数は、3単位の学校が66.7%と大半を占め ている。

3年間または4年間の履修総単位数は88~90単位が63.4%(336校)と多くを占め、91単位以

上設定している学校は26.8% (142校) と2.2ポイント上昇している。 卒業に必要な科目の修得単位数は、「75単位以下」の学校が31.4% (178校) で最も多く、「90 ~91単位」が21.2%(120校)、「80~81単位」が13.4%(78校)と続いている。

(4) 新学習指導要領における数学と理科の履修単位数について

新学習指導要領を踏まえた予定単位数については、92.1%の学校が決定済である。「数学 I」 「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」は標準単位数を履修する学校が多い。一方、「数学Ⅲ」「数学C」 を履修しない学校は半数以上ある。理科は「科学と人間生活」を2単位履修する学校が最も多く、続いて「化学基礎」を2単位履修する学校の順となっている。一方、「地学」「生物」は約 9割の学校は履修してない。

(5) 進学希望者の指導について

進学希望者の指導については、67.7%の学校が教育課程上の対応をしているが、一昨年から減少傾向にある。教科では、「数学」が最も多く、次に「英語」である。教育課程以外の対 応では、平日の課外授業と長期休業中が多く、複数の時期で対応していることが伺える。

(6) 大学入試について

大学入学共通テストを受験する学校は35.4%と一昨年比5.8ポイント減少で、そのうち受験者数は「5名以内」の学校の割合(53.5%)が多く、「21名以上」の学校の割合(31.0%)が続い ている。「教育課程以外で対応」している学校が55.0%あるものの、「教育課程上で対応」して いる学校は45.0%の一昨年度比11.2ポイント上昇している。また、対応している教科は、実際の受験科目と同様の傾向であり「数学」「英語」が多く、続いて「国語」「物理」の順となって いる。

(7) ICT教育・情報化教育の取組について

「よく活用している」が70.1%、「全く活用していない」が0.2%となっており、座学にお けるICT機器の活用は着実に進んでいる。人工知能について取り組んでいる学校は、昨年 度比9.6ポイントと増加傾向にある。

(8) 遠隔システムについて

授業で22.3%の学校が利用し、昨年度比4.0ポイント上昇している。臨時休業や学級閉鎖等の対応でオンライン学習での活用事例が多い。遠隔システムの中で多かったのが「Google Classroom」「Google Meet」「Google Workspace for Education」「ZOOM」「Microsoft Teams」な ど多種にわたっている。

(9) GIGAスクール構想に伴う情報機器の整備について

情報機器の整備については、BYODで使用する学校が41.6%となり、初めて設置者による配備 の40.4%を超え、生徒が自分の個人用端末を使用する傾向が増加している。計算機(電卓)を 購入させている学校は85.0%で増加傾向にあり、多くの学校が購入させている。

(10) 総合的な探究の時間について

課題研究以外に、34.9%の学校が「総合的な探究の時間」を実施している。主な取組内容は、 1年次、2年次において、キャリア教育に関する内容が多くを占めており、各学校が地域の資源や人材を活用して、特色ある教育活動を実施している。

### Ⅱ 学校改革について

#### 〇 調査目的

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、生徒一人ひとりの個性に応じ、その能力を最大限に伸ばす創意工夫に富んだ教育活動を行うことが重要である。そこで、本年度も学校改革・活性化、職員の意識改革、長期休業期間の活用法などについて調査した。

### 1. 学校改革・活性化について

#### (1) 学校改革・学校活性化について

学校改革・学校活性化で特に力を入れているものを伺います。(3つ以内)

ア 学校の統合 イ 学科の新設や改編 ウ 入学者選抜の見直し

エ 特色ある教育課程の編成 オ 学校評価 カ 職員の意識改革

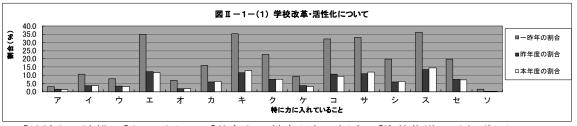
キ ものづくり ク 挨拶・服装・マナー指導 ケ 進学指導

コ 就職指導 サ 資格指導 シ 部活動 ス 地域との連携

セ 企業や他の教育機関との連携 ソ その他

表Ⅱ-1-(1) 学校改革・活性化について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	ク	ケ	П	サ	シ	ス	セ	ソ	合計
北海道	0	1	2	9	1	6	6	4	3	4	5	1	11	6	0	59
東北	2	6	3	20	7	11	31	14	6	23	29	16	35	13	0	216
関東	3	14	9	41	5	19	35	28	18	31	34	9	35	21	1	303
北信越	4	3	1	17	1	6	15	7	1	9	16	9	26	15	1	131
東海	0	8	4	19	2	16	21	16	6	21	18	8	24	17	1	181
近 畿	3	7	2	28	5	13	25	13	3	14	22	11	26	16	0	188
中国	4	7	11	18	3	9	22	12	4	10	20	15	29	13	0	177
四国	2	1	3	10	0	0	13	4	4	10	12	6	9	3	0	77
九 州	2	14	16	24	7	20	41	22	7	31	36	24	39	14	0	297
合 計	20	61	51	186	31	100	209	120	52	153	192	99	234	118	3	1629
本年度の割合	1. 2	3.7	3. 1	11.4	1. 9	6. 1	12.8	7.4	3. 2	9.4	11.8	6. 1	14.4	7. 2	0. 2	
昨年度の割合	1.5	3.7	3.4	12. 2	1.8	5. 9	11. 7	7. 5	3.6	10.6	10.9	5.8	13.6	7.4	0.3	
一昨年の割合	3. 1	10.8	7. 9	34.9	6.8	15.9	35.4	22.7	9. 2	32. 1	33. 2	19.7	36. 2	19.7	1.4	



「地域との連携」「ものづくり」「特色ある教育課程の編成」「資格指導」があげられており、工業教育の特色を強みとした改革に各校が取り組んでいることが伺える。

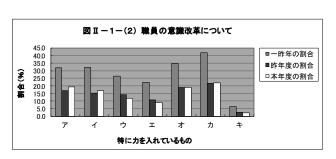
### (2)職員の意識改革について

職員の意識改革で特に力を入れているものを伺います。(3つ以内)

- ア 企業の人を招いての研修会・懇談会
- イ 企業や他の教育機関の実施する講習会への派遣
- ウ 職員グループによる学校の課題の研究 エ 教員評価システムの活用
- オ 保護者、地域への授業公開 カ 管理職による職員への積極的な情報の提示
- キ その他

表Ⅱ-1-(2) 職員の意識改革について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	合計
北海道	13	7	4	2	3	18	1	48
東北	27	28	12	- 11	27	37	3	145
関東	37	27	26	22	55	53	2	222
北信越	24	17	14	6	18	18	3	100
東海	25	17	14	15	26	29	6	132
近 畿	24	21	13	5	25	23	5	116
中国	21	24	17	12	21	22	2	119
四国	11	8	5	6	16	8	1	55
九 州	39	43	29	26	28	44	3	212
合 計	221	192	134	105	219	252	26	1149
本年度の割合	19. 2	16.7	11.7	9. 1	19.1	21.9	2. 3	/
昨年度の割合	16.8	15.1	14.0	10.7	19.0	21.6	2. 7	
一昨年の割合	31.8	32.3	26.3	22. 4	34.5	41.7	6.3	$\backslash$



「管理職による職員への積極的な情報の提示」が最も高い。「企業の人を招いての研修会・懇談会」など外部を活用した取組が前年と比べ増加している。

### (3) 長期休業期間について

#### ① 長期休業中の短縮による授業設定の有無、及び授業設定日数について

長期休業中の短縮による授業設定の有無、及び授業設定日数についてお答えください。

ア 設定していない

イ 3日以内

ウ 5日以内

工 10目以内

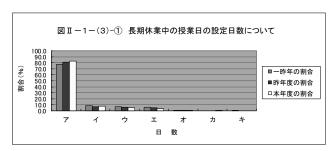
才 15目以内

カ 20日以内

キ 20日を超える

表Ⅱ-1-(3)-① 長期休業中の授業日の設定日数について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	合計
北海道	19	0	0	0	0	0	0	19
東北	63	6	1	2	0	0	0	72
関東	95	7	1	4	0	0	0	107
北信越	35	5	4	1	1	0	0	46
東海	58	6	1	1	1	0	0	67
近 畿	42	7	9	6	0	0	0	64
中国	42	7	7	2	0	1	0	59
四国	24	1	2	0	0	0	0	27
九州	88	6	6	2	1	0	0	103
合 計	466	45	31	18	3	1	0	564
本年度の割合	82. 6	8.0	5. 5	3. 2	0.5	0. 2	0.0	100
昨年度の割合	81.2	7.3	6. 1	4.9	0.5	0.0	0.0	100
一昨年の割合	77.4	9.0	6. 7	6. 2	0.3	0.0	0.3	100



「設定していない」が8割以上を占めている。

#### ② 授業の内容

授業の内容についてお答えください。

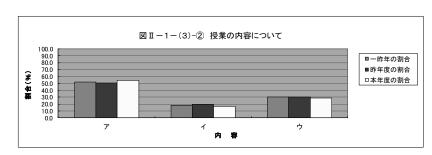
ア 通常日課の授業

イ 資格取得のための特別授業

ウ その他

表Ⅱ-1-(3)-② 授業の内容について





「通常日課の授業」が約半数を占めている。

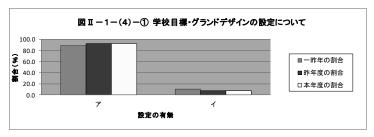
#### (4) 学校目標・学校評価・グランドデザインについて

### ① 学校目標・学校評価・グランドデザインについて

学校目標・グランドデザインを設定していますか。 ア はい イ いいえ

表II - 1 - (4) - ① 学校目標・グランドデザインの設定について

	ア	ノ	合計
北海道	19	0	19
東北	66	5	71
関東	103	6	109
北信越	45	1	46
東海	60	3	63
近 畿	55	9	64
中国	54	6	60
国	25	2	27
九州	95	9	104
合 計	522	41	563
本年度の割合	92.7	7.3	100
昨年度の割合	92.4	7. 6	100
一昨年の割合	89. 1	10.9	100



昨年同様に9割を超える学校が学校目標・グランドデザインを設定している。

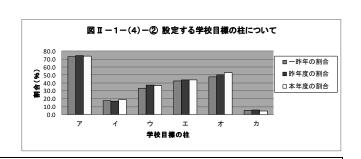
### ② 設定する学校目標の柱について

設定する学校目標の柱は何ですか。(3つ以内)

ア 教科指導 イ 教科外指導 ウ 学校運営 エ 生徒指導 オ 地域連携 カ その他

表 Ⅱ - 1 - (4) - ② 設定する学校目標の柱について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	合計
北海道	17	2	5	11	14	2	51
東北	57	11	24	31	45	3	171
関東	90	24	46	50	56	6	272
北信越	36	10	12	21	33	1	113
東海	47	13	24	31	32	2	149
近 畿	38	12	24	28	32	2	136
中国	46	11	23	27	32	4	143
四国	19	11	8	5	15	1	59
九州	73	14	43	47	45	5	227
合 計	423	108	209	251	304	26	1321
本年度の割合	73.4	18.8	36.3	43.6	52.8	4.5	
昨年度の割合	74.5	17. 3	37. 2	43.6	50.3	6. 2	
一昨年の割合	73.3	17. 4	33.5	42.7	47. 5	5. 1	



#### その他

- キャリア教育
- 進路指導
- ・探究活動
- グローバル教育
- ・ものづくり

- ・人材育成 ・各学校の特色に関係する内容

「教科指導」が依然として高い状況にあり、それに次ぐ項目の順及び割合に大きな変化はない。 「カーその他」を選択した学校の回答には、「グローバル社会で活躍できる人材の育成」「キャリ ア教育 | 「DXの利活用推進 | 「高大接続 | 「探究活動 | 「広報活動 | 「連携型中高一貫教育・校種間連 携事業」「人権同和教育」等があった。

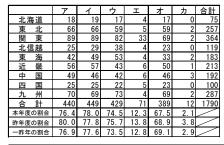
### ③ 学校評価について

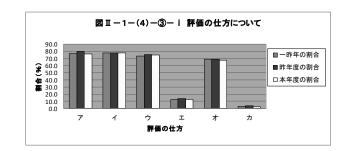
i 評価の仕方はどのようにしていますか。(活用しているものすべて)

イ 保護者評価 ウ 学校評議員評価 ア 生徒評価 エ 地域住民による評価

オ 教職員評価 カ その他

表 II - 1 - (4) - ③ - i 評価の仕方について





#### その他

- 学校運営協議会による評価
- 学校関係者評価委員による評価

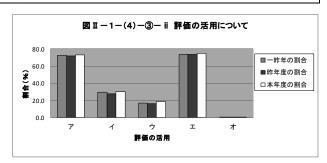
· 分掌内評価

ほとんどの学校が、生徒評価・保護者評価・学校評議員評価・教職員評価に取り組んでいる。

- ii どのように活用していますか。
  - ア 次年度の学校目標設定に活かす イ 生徒指導に活かす ウ 学校PRに活用する
  - オ その他 エ 学校運営の改善に活かす

表 II - 1 - (4) - ③ - ii 評価の活用について

	ア	7	٦.	H	オ	合計
北海道	14	8	7	17	0	46
東北	53	28	9	64	1	155
関東	81	35	18	83	1	218
北信越	40	13	9	33	0	95
東海	48	24	17	51	0	140
近 畿	51	22	15	50	0	138
中国	47	11	8	43	0	109
四国	21	10	7	21	0	59
九州	67	23	18	68	1	177
合 計	422	174	108	430	3	1137
本年度の割合	73.3	30. 2	18.8	74.7	0.5	
昨年度の割合	71.6	28. 0	16.6	73.8	0.3	
一昨年の割合	72.6	29.6	17. 3	73.7	0.3	



「学校運営の改善に活かす」「次年度の学校目標設定に活かす」は多くの学校で活用されて いる。

#### 2. 学校改革についてのまとめ

#### (1) 学校改革・学校活性化について

特に力を入れているものについて重要視されているのは、「地域との連携」 「ものづくり」「資格取得」「特色ある教育課程の編成」の順であり、その中でも「地域との連携」「ものづくり」「資格指導」については増加傾向にあり、工業教育の特色を活用した学校改革に取り組む様子が伺える。「特色ある教育課程の編成」は0.8ポイント下がった。

#### (2) 職員の意識改革について

特に力を入れている職員の意識改革は、「管理職による職員への積極的な情報の提示」「保護者、地域への授業公開」「企業の人を招いての研修会・懇談会」である。特に「企業の人を招いての研修会・懇談会」は前年度と比べ2.4ポイント増加しており、企業人から時勢の変化を学び、職員の学校改革の意識の醸成をはかろうとしていることが伺える。

#### (3) 長期休業期間について

長期休業中の短縮による授業は、「設定していない」が80%前後で推移している。設定している学校では「通常日課の授業」が約半数を占める。

#### (4) 学校目標・学校評価・グランドデザインについて

9割を超える学校が、学校目標・グランドデザインを設定している。設定する学校目標の柱としては「教科指導」が7割を超えて最も多く、「地域連携」「生徒指導」と続く。また、学校評価については、多くの学校で、生徒評価・保護者評価・学校評議員評価・教職員評価に取り組んでいる。「地域住民による評価」は12.3%と少ないものの積極的に多様な評価者を選んで実施している。評価内容は「学校運営の改善」「次年度の学校目標設定」等に活用されている。

### Ⅲ 産学連携・地域連携について

#### ○ 調査目的

望ましい勤労観、職業観の育成や社会への奉仕精神の涵養とともに、開かれた学校づくりを推進するために、各学校では様々な取組を行っている。一方、近年の若者を中心としたものづくり離れ、熟練技能者の高齢化などは、我が国の経済発展を担うものづくり基盤技術の継承を困難なものにしつつある。

そこで、地域や産業界とのパートナーシップの確立や、ものづくりに関する学校教育の充実 に資するよう、学校と地域との連携状況、産学の連携状況を調査した。

### 1. インターンシップについて

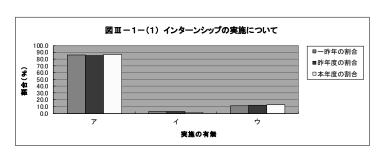
### (1) インターンシップの実施について

インターンシップの実施について伺います。

ア 実施している イ 検討中 ウ 実施していない

表Ⅲ-1-(1)インターンシップの実施について

	ア	1	ゥ	合計
北海道	18	0	1	19
東北	69	1	3	73
関東	94	1	14	109
北信越	44	0	2	46
東海	59	2	6	67
近 畿	46	0	18	64
中国	51	2	7	60
四国	24	0	3	27
九州	86	2	16	104
合 計	491	8	70	569
本年度の割合	86.3	1.4	12. 3	100
昨年度の割合	85.5	2. 6	11.9	100
一昨年の割合	86. 2	2. 9	10.9	100



「実施している」が86.3%で、「検討中」「実施なし」は少ない。

#### (2) 実施している学校の実施内容について

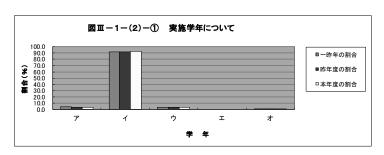
### ① 実施学年について

実施学年についてお答えください。

ア 1年 イ 2年 ウ 3年 エ 4年 オ その他

表Ⅲ-1-(2)-① 実施学年について

	ア	1	ウ	エ	オ	合計
北海道	1	17	0	0	0	18
東北	0	68	1	0	0	69
関東	5	86	4	0	0	95
北信越	3	38	3	0	0	44
東海	0	54	1	0	4	59
近 畿	1	43	2	0	0	46
中国	5	42	3	0	0	50
四国	0	23	1	0	0	24
九州	1	83	2	0	0	86
合 計	16	454	17	0	4	491
本年度の割合	3.3	92.5	3.5	0.0	0.8	100
昨年度の割合	3.8	92. 1	3. 2	0.0	0.8	100
一昨年の割合	4. 0	91.5	3. 2	0.0	1. 2	100



「2年生」の実施が92.5%と最も多く、「1年生」の実施が減少している。

#### ② 参加者について

参加者についてお答えください。

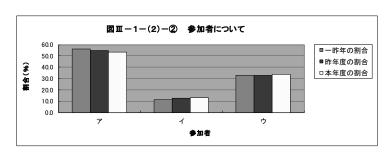
ア 学年全員

イ 科の生徒全員

ウ 一部の生徒

表Ⅲ-1-(2)-② 参加者について

	ア	1	ウ	合計
北海道	12	5	1	18
東北	45	14	10	69
関東	46	8	41	95
北信越	30	3	10	43
東海	20	3	36	59
近畿	19	5	22	46
中国	21	5	24	50
国	12	5	7	24
九州	56	15	15	86
合計	261	63	166	490
本年度の割合	53.3	12. 9	33.9	100
昨年度の割合	54.5	12.7	32.7	100
一昨年の割合	56.0	11.1	32. 9	100



「学年全員」での実施が最も多いが、「科の生徒全員」による実施が増加傾向である。

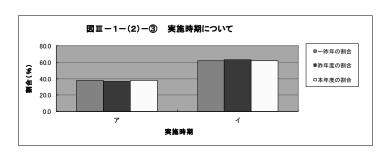
### ③ 実施時期について

実施時期についてお答えください。

ア 長期休業中 イ 授業日( )月

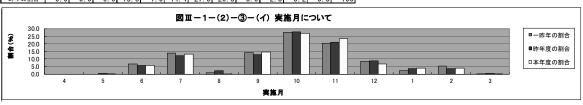
表Ⅲ-1-(2)-③ 実施時期について

	ア	7	合計
北海道	3	14	17
東北	11	55	66
関東	38	54	92
北信越	20	22	42
東海	39	19	58
近 畿	22	24	46
中国	26	22	48
四国	5	17	22
九州	16	65	81
合 計	180	292	472
本年度の割合	38. 1	61.9	100
昨年度の割合	36.5	63.5	100
一昨年の割合	37.7	62.3	100



表Ⅲ-1-(2)-③-(1) 実施時期( )月

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
北海道	0	0	1	2	0	10	0	2	0	0	0	0	15
東北	0	0	7	7	0	17	19	5	1	0	1	0	57
関東	0	1	3	5	0	3	15	15	5	1	6	0	54
北信越	0	0	3	10	1	0	8	1	0	0	0	0	23
東海	0	0	0	3	0	3	6	7	0	0	1	0	20
近 畿	0	0	0	2	0	1	4	10	4	2	1	0	24
中国	0	0	3	2	0	4	1	7	1	1	3	1	23
国四	0	0	0	0	0	2	6	6	0	3	0	0	17
九州	0	0	0	9	1	4	22	18	9	5	0	0	68
合計	0	1	17	40	2	44	81	71	20	12	12	1	301
本年度の割合	0.0	0.3	5. 6	13.3	0.7	14.6	26.9	23.6	6.6	4. 0	4. 0	0.3	100
昨年度の割合	0.0	0.6	5.7	12.3	2. 2	13.0	27.8	21. 2	8. 9	3.8	3.8	0.6	100
一昨年の割合	0.0	0.0	6.6	13.8	1.0	14. 4	27. 5	20. 3	8. 5	2. 3	5. 2	0.3	100



授業日実施が61.9%と多い。また、「6月」の実施は減少傾向にあり、「11月」の実施は増加傾向にある。

### ④ 実施期間について

実施期間についてお答えください。

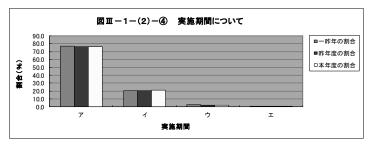
ア 3日以内 イ 4~5日

ウ 1~2週間

エ 2週間以上

表Ⅲ-1-(2)-④ 実施期間について

	ア	1	ウ	I	合計
北海道	16	2	0	0	18
東北	59	8	1	1	69
関東	62	29	2	1	94
北信越	40	4	0	0	44
東海	49	9	0	0	58
近 畿	27	15	3	0	45
中国	40	10	1	0	51
四国	16	6	2	0	24
九州	62	21	1	0	84
合 計	371	104	10	2	487
本年度の割合	76. 2	21.4	2. 1	0.4	100.0
昨年度の割合	76.5	20.6	2. 2	0.6	100
一昨年の割合	77. 1	20.3	2. 4	0.2	100



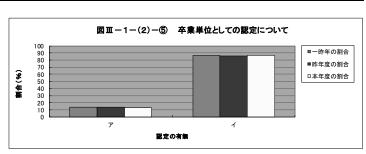
「3日以内」及び「 $4\sim5$ 日」を合わせると97.6%であり、1週間以上実施の学校はごく少数である。

### ⑤ 卒業単位としての認定について

卒業単位としての認定の有無についてお答えください。 ア する イ しない

表Ⅲ-1-(2)-⑤ 卒業単位としての認定について

24 11 1	_ / @	·	V+14C
	ア	1	合計
北海道	3	15	18
東北	7	60	67
関東	19	75	94
北信越	5	39	44
東海	7	51	58
近 畿	3	42	45
中国	9	42	51
四国	6	18	24
九州	5	80	85
合 計	64	422	486
本年度の割合	13. 2	86.8	100
昨年度の割合	13.9	86.1	100
一昨年の割合	13.6	86.4	100



卒業単位として認定している学校が13.2%である。

### ⑥ 実施上の問題点について

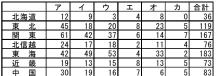
表 II-1-(2) - ⑥ 実施上の問題点について

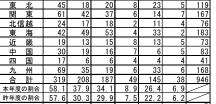
208

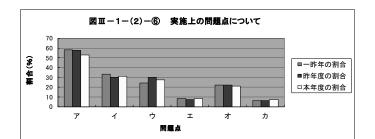
実施上の問題点はどんなことですか。(3つ以内)

受け入れ企業の問題 イ 事前・事後の打合せ ウ 校内指導体制

オ 安全対策 カ その他 カリキュラムとの関連







「受け入れ企業の問題」が最も多い。

### (3) インターンシップが実施できない理由について

インターンシップが実施できない理由は何ですか。(複数回答可)

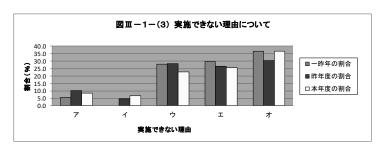
ア 地域に企業が少ない

ウ 指導体制 イ 費用

エ 日程 オ その他

表Ⅲ-1-(3)実施できない理由について

	ア	7	ウ	I	オ	合計
北海道	0	0	1	0	0	1
東北	0	0	2	1	3	6
関東	1	1	5	5	10	22
北信越	0	0	0	0	2	2
東海	1	1	3	3	3	11
近 畿	1	0	5	5	10	21
中国	0	0	3	3	5	11
四国	1	0	0	1	1	3
九州	5	5	5	9	5	29
合 計	9	7	24	27	39	106
本年度の割合	8.5	6.6	22.6	25.5	36.8	100
昨年度の割合	10.1	4.6	28.4	26.6	30.3	100
一昨年の割合	5.8	0.0	27. 9	29.8	36.5	100



実施できない理由は「指導体制」「日程」を上げるところが多い。

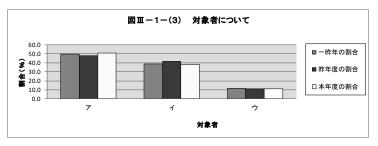
### (4) 2024年度以降の実施対象者について(全ての学校に伺います)

実施対象者についてお答えください。

ア 全員に実施している 一部の生徒に実施する ウ 全く実施しない

表Ⅲ-1-(3) 対象者について

	ア	1	ウ	合計
北海道	17	1	1	19
東北	50	20	3	73
関東	48	49	13	110
北信越	32	12	1	45
東海	18	42	5	65
近 畿	19	26	16	61
中国	23	30	6	59
四国	17	8	2	27
九 州	61	27	14	102
合 計	285	215	61	561
本年度の割合	50.8	38.3	10.9	100
昨年度の割合	47.7	41.5	10.8	100
一昨年の割合	49.4	38. 7	11.9	100



「全員に実施している」学校が増加している。

### 2. デュアルシステムについて

### (1) デュアルシステムの実施について

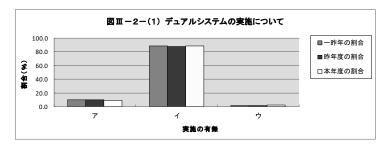
デュアルシステムの実施について伺います。

ア 実施している

イ 実施していない ウ 検討中

表Ⅲ-2-(1) デュアルシステムの実施について

	ア	1	ウ	合計	
北海道	1	17	0	18	
東北	1	72	0	73	
関東	16	91	3	110	
北信越	11	35	0	46	
東海	4	63	0	67	
近 畿	8	51	4	63	
中国	4	52	3	59	
四国	3	24	0	27	
九州	3	93	6	102	
合 計	51	498	16	565	
本年度の割合	9.0	88. 1	2.8	100	
昨年度の割合	10.1	87. 9	2. 1	100	
一昨年の割合	9.7	88.4	1.9	100	



9.0%の学校が実施している。

### (2) デュアルシステムの実施内容について

#### ① 実施形態について

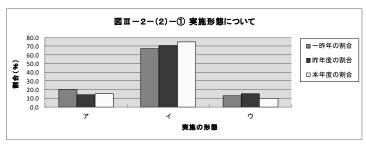
実施形態をお答えください。 ア 長期休業中に実施

イ 科目に割り当て週毎に実施

ウ その他

表Ⅲ-2-(2)-① 実施形態について

~ =	· - /	•	JC 110 117	/6.1	• •
	ア	イ	ゥ	合計	
北海道	0	1	0	1	
東北	0	0	1	1	
関東	2	12	2	16	
北信越	5	4	2	11	
東海	0	4	0	4	
近 畿	1	7	0	8	
中 国	0	4	0	4	
四国	0	3	0	3	
九州	0	4	0	0	
合 計	8	39	5	52	
本年度の割合	15. 4	75. 0	9.6	100	
昨年度の割合	13.8	70.7	15.5	100	
一昨年の割合	20 0	67.3	12 7	100	



「科目に割り当て週毎に実施」が75.0%と最も多く、増加傾向である。

### ② 実施学年について

3年

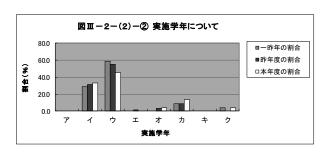
工 4年

オ 1~2年  $2\sim3$ 年 力

キ 3~4年

3年間以上





「3年」又は「2年」の単年度実施がほとんどである。「2年」が増加傾向である。

#### ③ 参加者について

参加者をお答えください。

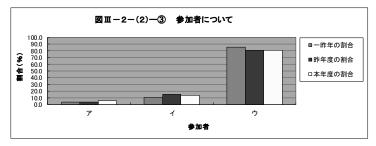
ア 学年全員

イ 科の生徒全員

ウ 一部の生徒

表皿-2-(2)-③ 参加者について

	-/ •			
	ア	1	ウ	合計
北海道	0	0	1	1
東北	0	0	1	1
関東	1	4	11	16
北信越	1	0	10	11
東海	0	0	4	4
近 畿	1	1	6	8
中国	0	2	2	4
四国	0	0	3	3
九州	0	0	3	3
合 計	3	7	41	51
本年度の割合	5. 9	13.7	80.4	100
昨年度の割合	3.4	15.5	81.0	100
一昨年の割合	3.6	10.7	85. 7	100



参加者は「一部の生徒」が80.4%である。

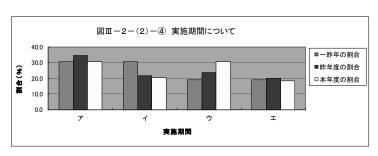
### ④ 実施期間について

実施期間をお答えください。

イ 3ヶ月程度 ウ 半年程度 エ 1年以上 ア 1~2か月程度

事Ⅲ-2-(2)-Ø 宝梅期間について

<u>жш 2 (</u>	X皿 Z (Z) 頃 天心期间について						
	ア	1	ウ	I	合計		
北海道	1	0	0	0	1		
東北	1	0	0	0	1		
関東	4	3	5	3	15		
北信越	6	2	1	1	10		
東海	0	0	2	2	4		
近 畿	2	2	3	1	8		
中国	1	1	0	2	4		
四国	0	2	1	0	3		
九州	0	0	3	0	3		
合 計	15	10	15	9	49		
本年度の割合	30.6	20.4	30.6	18.4	100		
昨年度の割合	34.5	21.8	23.6	20.0	100		
一昨年の割合	30.8	30.8	19. 2	19.2	100		



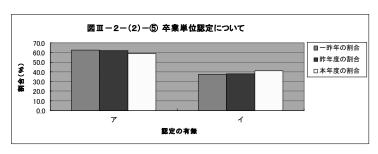
「 $1 \sim 2$  ヶ月程度」と「3 ヵ月程度」を合わせると51.0%であるが、「半年程度」が増加傾向 である。

### ⑤ 卒業の単位としての認定の有無について

卒業の単位としての認定についてお答えください。 ア する イ しない

表Ⅲ-2-(2)-⑤ 卒業単位認定について

1X III Z (	2 / 🥹	y + 3	K = 14 n	NO.
	ア	1	合計	
北海道	1	0	1	
東北	0	1	1	
関東	13	3	16	
北信越	4	7	11	
東海	3	1	4	
近 畿	3	5	8	
中 国	2	2	4	
四国	3	0	3	
九州	1	2	3	
合 計	30	21	51	
本年度の割合	58.8	41.2	100	
昨年度の割合	62. 1	37. 9	100	
一昨年の割合	62.5	37.5	100	



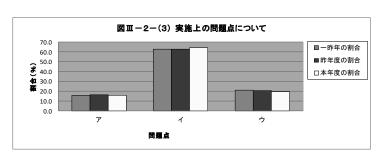
卒業の単位として認定する学校は58.8%である。

### (3) デュアルシステムを実施していない学校の実施上の問題点について

実施上の問題点についてお答えください。(複数回答可) ア 受け入れ企業が少ないから イ 時間割上、編成できないから ウ その他

表Ⅲ-2-(3)実施上の問題点について

衣並 2 (0) 天施工の同處点にうい						
	ア	ト	þ	合計		
北海道	3	12	3	18		
東北	10	58	14	82		
関東	6	62	26	94		
北信越	5	25	7	37		
東海	9	49	9	67		
近 畿	2	38	11	51		
中国	10	33	14	57		
四国	9	13	7	29		
九州	33	64	17	114		
合計	87	354	108	549		
本年度の割合	15.8	64.5	19.7	100		
昨年度の割合	16.5	62.8	20.7	100		
一昨年の割合	16.0	62.7	21.4	100		



実施していない学校の多くが「時間割上、編成できないから」と回答している。

#### 3. 地域との連携について

### (1) 生徒による地域活動について

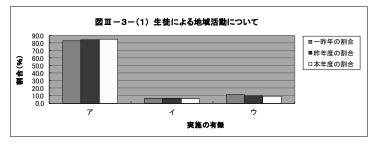
生徒による地域活動を実施していますか。

ア 実施している イ 検討中(する方向で)

ウ 実施していない

表Ⅲ-3-(1) 生徒による地域活動について

	ア	1	ウ	合計	
北海道	17	1	0	18	
東北	59	3	10	72	
関東	92	7	11	110	
北信越	40	3	2	45	
東海	59	4	4	67	
近 畿	53	3	6	62	
中国	50	3	6	59	
四国	23	0	4	27	
九州	81	10	9	100	
合 計	474	34	52	560	
本年度の割合	84.6	6. 1	9.3	100	
昨年度の割合	83.9	6.3	9.8	100	
一昨年の割合	82. 7	6. 2	11.1	100	



「実施している」が84.6%である。

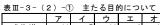
#### (2)(1)を実施している学校の実施内容について

#### ① 主たる目的について

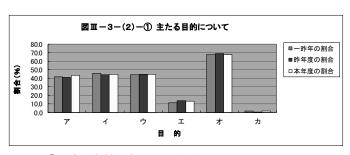
主たる目的をお答えください。 (3つ以内)

ア 生徒の地域理解 イ 地域の学校理解 ウ 学校のPR エ 郷土愛の育成

オ 地域貢献 カ その他



	ア	٦	Ļ	I	4	カ	合計
北海道	11	7	11	4	14	0	47
東北	43	29	23	13	54	0	162
関東	42	47	57	6	64	4	220
北信越	29	23	21	4	30	1	108
東海	25	38	30	6	49	1	149
近 畿	18	26	34	12	47	2	139
囲	27	33	23	12	42	0	137
四国	17	8	11	5	18	0	59
九州	37	46	49	13	72	0	217
合 計	249	257	259	75	390	8	1238
本年度の割合	43.1	44.5	44.8	13.0	67.5	1.4	
昨年度の割合	41. 2	44. 1	44.6	13.8	68.9	0.5	
一昨年の割合	41.4	45.8	43.8	10.9	67.4	1.7	



「地域貢献」が最も多く、次いで「学校のPR」「地域の学校理解」の順となっている。

### ② 活動内容について

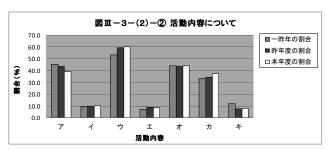
活動内容をお答えください。 (3つ以内)

ア 清掃活動 イ 福祉施設等への訪問 ウ イベント (祭りなど) への参加

エ 交通安全指導 オ ものづくり教室 カ 出前授業 キ その他

表Ⅲ-3-(2)-② 活動内容について

X = 0 (1) @ /12311111000									
	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	合計	
北海道	6	1	12	0	11	6	2	38	
東北	32	7	42	1	29	30	6	147	
関東	38	12	63	16	46	38	9	222	
北信越	15	5	32	6	21	13	6	98	
東海	23	10	47	9	32	23	4	148	
近 畿	23	8	44	1	30	26	3	135	
中国	30	4	38	4	21	23	7	127	
四国	12	3	17	6	14	10	2	64	
九 州	48	8	54	5	50	47	7	219	
合 計	227	58	349	48	254	216	46	1198	
本年度の割合	39.3	10.0	60.4	8.3	43.9	37. 4	8. 0		
昨年度の割合	43.8	9.7	59.3	8.9	43.4	34.5	7. 5		
一昨年の割合	45. 3	9.4	53.0	7. 2	43. 9	33. 3	12. 0		



「イベント(祭りなど)への参加」が最も多く、次いで「ものづくり教室」「清掃活動」の順となっている。

#### キ その他の活動

その他の具体的な取組(主なものを記載)

- ・地域からの依頼によるものづくり
- ・環境整備や電気工事などのボランティア活動
- 官民一体の環境活動
- ・地域の課題解決のためのものづくり支援
- 児童館との連携
- ・高校生が小学生に教えるプログラムを実施
- · 登山道整備活動
- ・地域連携協定に基いたものづくりの実施
- ・高校生議会(県) への参加
- ・高校生共創プロジェクト

- ・地元商店街での実習作品販売会
- ・車いす修理
- ・イベントに用いる物品の製作等
- ·修繕·修理、作品展
- おもちゃの修理ボランティア
- ・地域の問題をものづくりで解決
- 幼児を対象としたワークショップ

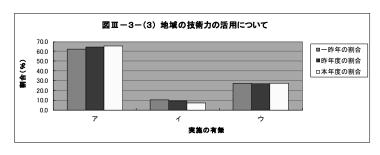
#### (3)地域の力を生徒の技術指導に生かすことについて

地域の力を生徒の技術指導に生かすことを実施していますか。

ア 実施している イ 検討中〔する方向で〕 ウ 実施していない

表Ⅲ-3-(3) 地域の技術力の活用について

	ア	1	ゥ	合計
北海道	16	0	2	18
東北	52	4	16	72
関東	63	9	38	110
北信越	38	3	5	46
東海	44	7	15	66
近 畿	38	4	21	63
田田	38	3	18	59
国	23	1	3	27
九州	57	9	37	103
合 計	369	40	155	564
本年度の割合	65.4	7. 1	27. 5	100
昨年度の割合	64.3	9.0	26.6	100
一昨年の割合	62 1	10.5	27 /	100



「実施している」が65.4%と増加傾向である。

### (4)(3)を実施している学校の実施内容について

### ① 地域の力の対象について

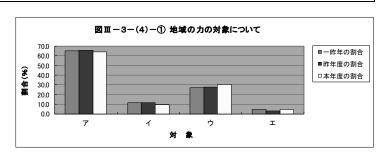
地域の力の対象をお答えください。(複数回答可)

ア 地場企業 イ 地域住民 ウ 近隣の大学・高専等 エ その他

表Ⅲ-3-(4)-① 地域の力の対象について

表面 0 (+/ ⊕ 起源00000000000000000000000000000000000								
	ア	1	ウ	エ	合計			
北海道	12	1	9	0	22			
東北	53	6	25	2	86			
関東	56	11	38	4	109			
北信越	39	6	24	2	71			
東海	47	7	19	5	78			
近 畿	40	5	13	3	61			
中国	39	7	12	2	60			
四国	22	3	8	2	35			
九州	60	9	27	6	102			
合 計	368	55	175	26	624			
本年度の割合	63.7	9.5	30.3	4.5				
昨年度の割合	65.5	11.3	27.7	3. 1				
一昨年の割合	65.1	11.5	26.8	4.6				

「地場企業」が最も多い。



### ② 実施時期について

実施時期をお答えください。

ア 授業中 イ 放課後

(複数回答可) ウ 長期休業中

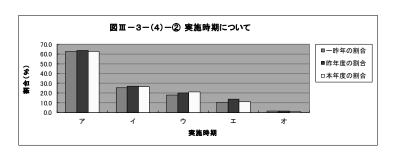
エ 週休日

オ その他

表皿-3-(4)-② 実施時期について

	ア	1	ウ	I	オ	合計
北海道	10	9	5	3	0	27
東北	51	23	12	11	3	100
関東	62	19	19	10	1	111
北信越	39	21	14	6	0	80
東海	43	20	24	11	0	98
近 畿	34	17	12	9	0	72
中国	39	18	11	4	0	72
四国	23	9	8	6	0	46
九 州	60	17	17	5	0	99
合 計	361	153	122	65	4	705
本年度の割合	62.5	26.5	21. 1	11. 2	0.7	
昨年度の割合	63.9	27. 2	19.8	13.5	1.4	
一昨年の割合	62.4	25.3	18. 1	10.4	1.7	

「授業中」が最も多い。



### (5) 総合的な探究の時間(又は課題研究)における地域や外部機関との連携について

### ① 地域や外部機関との連携について

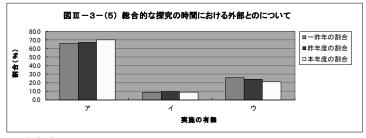
地域や外部機関との連携を行っていますか。

ア 実施している イ 検討中〔実施する方向で〕

ウ 実施していない

表 $\Pi$  - 3 - (5) 総合的な探究の時間における外部との連携について

	ア	1	ウ	合計
北海道	17	1	0	18
東北	53	4	16	73
関東	71	13	26	110
北信越	37	5	4	46
東海	39	8	19	66
近 畿	47	3	10	60
中国	39	2	15	56
四国	24	0	3	27
九州	63	14	24	101
合 計	390	50	117	557
本年度の割合	70.0	9.0	21.0	100
昨年度の割合	67. 2	9.1	23.7	100
一昨年の割合	65.7	8.5	25.8	100



「実施している」が70.0%であり、増加傾向である。

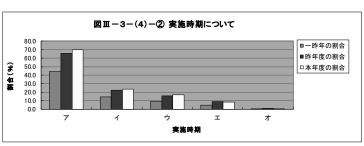
### ② 実施時期について

実施時期をお答えください。 (複数回答可)

ア 授業中 イ 放課後 ウ 長期休業中 エ 週休日 オ その他

表Ⅲ-3-(4)-② 実施時期について

ALL O (+/ C) Allen Mic 20 C								
	ア	イ	ウ	I	オ	合計		
北海道	18	5	2	1	0	26		
東北	55	16	11	5	0	87		
関東	76	25	19	11	0	131		
北信越	37	13	9	6	0	65		
東海	42	19	10	7	2	80		
近 畿	46	14	12	5	1	78		
中国	41	10	9	6	1	67		
国	23	14	10	3	0	50		
九州	64	20	14	3	0	101		
合 計	402	136	96	47	4	685		
本年度の割合	69.6	23.5	16.6	8. 1	0.7			
昨年度の割合	65.3	22. 4	15.7	8.9	1. 2			
一昨年の割合	44.4	14. 7	8. 7	4. 6	0.7			



「授業中」が最も多く、増加傾向である。

### 4. 高・大学等連携について

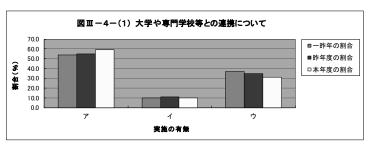
### (1) 大学や専門学校等との連携の実施について

大学や専門学校等との連携を実施していますか。

ア 実施している イ 検討中〔する方向で〕 ウ 実施していない

表Ⅲ-4-(1)大学や専門学校等との連携について

<u> Д</u>	· · / ·	,,,,	-3-1-3-3	, ·
	ア	1	þ	合計
北海道	14	1	3	18
東北	45	8	20	73
関東	72	9	27	108
北信越	28	4	13	45
東海	48	2	17	67
近 畿	31	5	27	63
田中	23	9	26	58
国四	13	3	11	27
九州	59	13	31	103
合 計	333	54	175	562
本年度の割合	59.3	9.6	31.1	100
昨年度の割合	54.7	10.7	34.6	100
一昨年の割合	53.7	9.7	36.6	100



「実施している」が59.3%であり、増加傾向である。

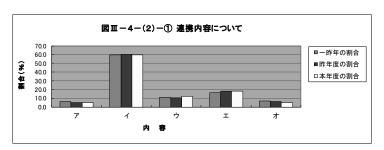
### (2)(1)を実施している学校の実施内容について

### ① 連携内容について

ア 単位の修得 イ 知識・技術的な支援 ウ 授業補助 (チューター)

エ 施設利用 オ その他





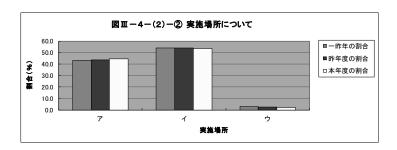
「知識・技術的な支援」が最も多い。

#### ② 実施場所について

実施場所をお答えください。 (複数回答可)

ア 連携先で実施 イ 自校で実施 ウ その他

			実施場所について			
	ア	7	ウ	合計		
北海道	8	12	0	20		
東北	25	32	1	58		
関東	46	54	1	101		
北信越	19	24	0	43		
東海	33	35	0	68		
近 畿	25	19	2	46		
田中	10	19	3	32		
四国	6	9	1	16		
九州	33	44	1	78		
合 計	205	248	9	462		
本年度の割合	44. 4	53.7	1.9	100		
昨年度の割合	43.6	54.0	2.4	100		
一昨年の割合	43.2	53.9	2. 9	100		



「自校で実施」が最も多い。

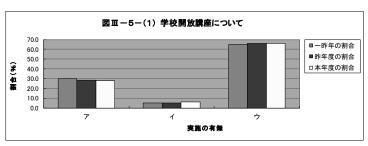
#### 5. 学校開放講座について

#### (1) 学校開放講座の実施について

学校開放講座を実施していますか。

ア 実施している イ 検討中 ウ 実施していない





「実施している」は27.9%、「実施していない」は65.9%である。

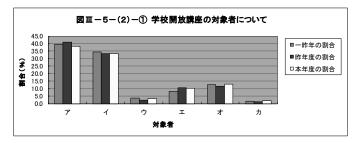
### (2)(1)を実施している学校の実施内容について

### ① 学校開放講座の対象者について

学校開放講座の対象者をお答えください。 (複数回答可)

ア 小学生 イ 中学生 ウ 高校生 エ 保護者 オ 一般人 カ その他

合 計 104 91 本年度の割合 38.2 33.5 昨年度の割合 40.9 33.5 一昨年の割合 39.6 34.4



「小学生」が最も多く、次いで「中学生」である。

### ② 学校開放講座の内容について

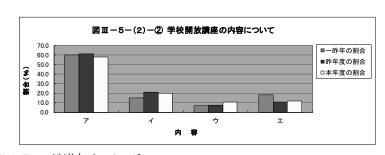
2. 1 10. 7 11. 7 3. 7 8. 1 12. 8

学校開放講座の内容をお答えください。 (複数回答可)

ア ものづくり イ パソコン ウ CAD エ その他

表Ⅲ-5-(2)-② 学校開放講座の内容について

	ア	1	ウ	エ	合計
北海道	9	2	2	1	14
東北	12	6	2	2	22
関東	25	10	2	6	43
北信越	4	3	2	1	10
東海	16	7	7	6	36
近 畿	11	3	2	3	19
中国	15	1	3	3	22
四国	9	3	1	2	15
九 州	30	10	3	3	46
合 計	131	45	24	27	227
本年度の割合	57.7	19.8	10.6	11.9	100
昨年度の割合	61.1	20.9	7. 5	10.5	100
一昨年の割合	60.0	14. 9	6.8	18.3	100



「ものづくり」が最も多く、「CAD」が増加している。

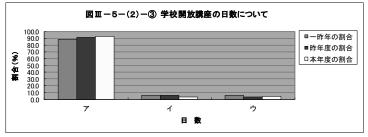
### ③ 講座日数について

講座日数をお答えください。 (断続を含む)

ア 5日以下 イ 10日以下 ウ 11日以上

表Ⅲ-5-(2)-③ 学校開放講座の日数について(断続を含む)

北海道 東 北 関 東	10 12	0	0	10
		1	>	
関東			0	13
	29	3	2	34
北信越	6	0	0	6
東海	19	0	1	20
近 畿	15	0	1	16
国中	17	0	0	17
四国	8	1	0	9
九州	30	0	2	32
合 計	146	5	6	157
本年度の割合	93.0	3. 2	3.8	100
昨年度の割合	90.9	5. 5	3.7	100
一昨年の割合	88.4	5.8	5.8	100



「5日以下」が93.0%で最も多い。

### 6. 産学連携・地域連携についてのまとめ

#### (1) インターンシップについて

「実施している」が86.3%と大半である。実施している学校は「2年」、「学年全員」で取り組む学校が多い中、「科の生徒全員」による実施が増加傾向である。実施時期は、授業日実施が61.9%、長期休業中が38.0%で、「授業日実施」が増加傾向である。また、「2月」は減少傾向にあり、「10月」「11月」の実施が増加している。実施期間は「3日以内」と「4~5日」を合わせると97.1%であり、1週間以上、実施している学校はごく少数である。また、卒業の単位として認定する学校は13.2%に留まっている。実施上の問題点は、「受け入れ企業の問題」が最も多い。一方で「その他」の理由が増加傾向にある。2024年度以降の実施対象者については、「全く実施しない」が減少傾向にあり、「全員に実施する」が昨年度と比較して増加している。

#### (2) デュアルシステムについて

実施している学校は9.0%に留まる。実施は「科目に割り当て週毎に実施」が75.0%と最も多く増加傾向である。実施学年は、3年又は2年の単年度実施がほとんどであり、参加者については「一部の生徒」の参加が80.4%である。実施期間は「1~2ヶ月程度」と「3ヶ月程度」を合わせると51.0%である。一方で「半年程度」が増加傾向にある。卒業の単位として認定する学校が58.8%で、傾向に大きな変化はない。実施上の問題点は、64.5%が「時間割上、編成できないから」が最も多い。

#### (3) 地域との連携について

「実施している」が84.6%となり、一昨年度からわずかではあるが増加傾向である。内容については「地域貢献」が最も多く、「学校のPR」「地域の学校理解」「生徒の地域理解」など多様な目的をもって実施されている。活動内容は「イベントへの参加」「ものづくり教室」「清掃活動」「出前授業」の順に多い。地域の力を生徒の技術指導に生かすことについては、「実施している」が65.4%で増加傾向である。地域の力の対象としては「地場企業」が最も多い。実施時期は「授業中」が61.7%と最も多い。

総合的な探究の時間(又は課題研究)での地域や外部機関との連携については、「実施している」が70.0%であり、増加傾向である。実施期間は「授業中」が68.7%と最も多く、増加傾向である。

#### (4) 高・大学等連携について

「実施している」は59.3%であり増加傾向、「検討中(する方向で)」が減少傾向である。連携内容は「知識・技術的な支援」が最も多い。実施場所は、「連携先」と「自校」がほとんどである。

#### (5) 学校開放講座について

「実施している」は27.9%となっている。対象者は「小学生」「中学生」「一般」の順に 多い。

講座内容は「ものづくり」が最も多く、「CAD」が増加している。期間は「5日以下」が93.0%と最も多い。

### Ⅳ 学習指導・評価について

#### 〇 調査目的

生徒が主体的に学ぶ授業や分かる授業は生徒の学習意欲向上のためにも必要である。そこで、 生徒による授業評価や還元内容、地域や保護者による授業評価について調査した。また、指導 と評価の一体化のため、学習評価の改善についても調査した。

### 1. 授業評価について

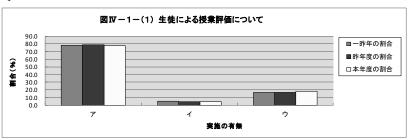
### (1) 生徒による授業評価について

生徒による授業評価を実施していますか。

ア 実施している イ 検討中 ウ 実施していない

表Ⅳ-1 - (1) 生徒による授業評価について

	ア	1	ゥ	合計
北海道	17	2	0	19
東北	54	4	15	73
関東	91	5	14	110
北信越	33	3	9	45
東海	43	4	19	66
近 畿	53	3	8	64
中国	54	1	4	59
四国	26	0	1	27
九 州	69	3	31	103
合 計	440	25	101	566
本年度の割合	77.8	4.4	17.8	100
昨年度の割合	78.8	4.5	16.7	100
一昨年の割合	78.2	5.0	16.8	100



「実施している」が77.8%で昨年度より、1ポイント減少している。

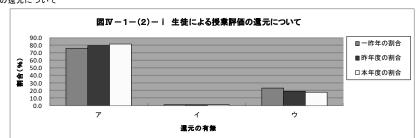
### (2) 実施している学校の授業への還元について

i 授業に還元できていますか。

ア できている イ できていない ウ どちらともいえない

表IV-1-(2)-i 生徒による授業評価の還元について

	ア	1	ゥ	合計
北海道	14	0	3	17
東北	49	1	4	54
関東	74	2	15	91
北信越	29	0	4	33
東海	34	0	9	43
近 畿	38	1	13	52
中国	39	0	14	53
四国	23	1	2	26
九州	55	0	14	69
合 計	355	5	78	438
本年度の割合	81.1	1.1	17.8	100
昨年度の割合	79.6	1.3	19.1	100
一昨年の割合	76.1	0.7	23.2	100



「できている」としている学校が81.1%で昨年度より、1.5ポイント増加している。

#### ii どのように環元できていますか。

ア 授業の教授法の改善

イ 生徒の学習習慣の改善

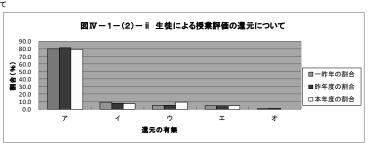
ウ 生徒の学力向上

エ 教授法の研修・共有

オ その他

表IV-1-(2)-ii 生徒による授業評価の還元について

	ア	7	ウ	エ	ォ	合計
北海道	13	0	1	0	0	14
東北	41	4	3	3	0	51
関東	61	3	10	1	0	75
北信越	23	0	3	1	0	27
東海	29	2	3	1	0	35
近 畿	27	3	4	5	0	39
中国	32	5	2	0	0	39
四国	20	1	0	1	0	22
九 州	37	7	6	5	0	55
合 計	283	25	32	17	0	357
本年度の割合	79.2	7.0	9.0	4.8	0.0	100
昨年度の割合	81.2	8.1	5.2	4.4	1.1	100
一昨年の割合	80.1	9.2	5.2	4.3	1.2	100



「授業の教授法の改善」が79.2%で、他の割合は少ない。

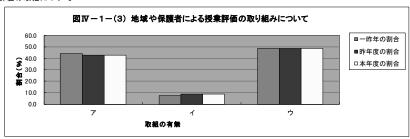
### (3)地域の人や保護者による授業評価について

地域の人や保護者による授業評価に取り組んでいますか。

ア 取り組んでいる イ 検討中 ウ 取組はない

表IV-1 - (3) 地域や保護者による授業評価の取組について

	ア	1	ウ	合計
北海道	10	5	4	19
東北	24	5	42	71
関東	50	9	51	110
北信越	18	6	22	46
東海	28	5	33	66
近畿	34	4	28	66
中国	20	4	35	59
四国	18	2	7	27
九州	40	9	53	102
合 計	242	49	275	566
本年度の割合	42.7	8.7	48.6	100
昨年度の割合	42.7	8.7	48.6	100
一昨年の割合	44.1	7.5	48.4	100



「取り組んでいる」が42.7%で昨年度と変わりがない。

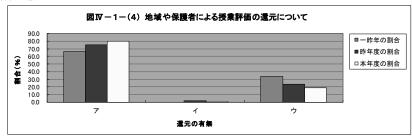
### (4)取り組んでいる学校の授業への還元について

授業に還元できていますか。

ア できている イ できていない ウ どちらともいえない

表Ⅳ-1 -(4) 地域や保護者による授業評価の還元について

	ア	1	ウ	合計
北海道	7	1	2	10
東北	17	0	8	25
関東	40	0	10	50
北信越	14	1	3	18
東海	22	0	5	27
近 畿	22	1	9	32
中国	18	0	2	20
四国	16	0	2	18
九 州	36	0	5	41
合 計	192	3	46	241
本年度の割合	79.7	1.2	19.1	100
昨年度の割合	75.1	1.6	23.3	100
一昨年の割合	66.1	0.0	33.9	100



取り組んでいる学校の中で「できている」と回答した学校が79.7%と4.6ポイント増加している。

#### 2. 学習評価の改善について

### (1) 学校全体での改善について

学校全体で評価の改善に取り組んでいますか。

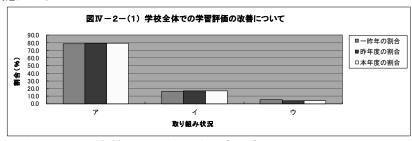
ア 学校全体で取り組んでいる

イ 一部で取り組んでいる

ウ 取り組んでいない

表Ⅳ-2 - (1) 学校全体での学習評価の改善について

	ア	1	ウ	合計
北海道	18	0	0	18
東北	56	15	2	73
関東	87	22	1	110
北信越	38	6	2	46
東海	54	9	4	67
近 畿	47	14	3	64
中国	46	10	3	59
四国	23	3	1	27
九州	81	15	7	103
合 計	450	94	23	567
本年度の割合	79.4	16.6	4.0	100
昨年度の割合	79.4	16.6	4.0	100
一昨年の割合	78.7	16.1	5.2	100



学校全体で評価の改善に取り組んでいる学校が79.4%で昨年度と変わりがない。

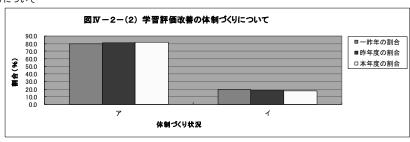
#### (2) 改善のための体制づくりについて

改善のための体制づくりを行っていますか。

ア 行っている イ 行っていない

表Ⅳ-2 - (2) 学習評価改善の体制づくりについて





行っている学校が82.0%で0.6ポイント増加した。

## (3) 評価指標や評価方法について

実施または使用している評価指標や評価方法をお答えください。(複数回答可)

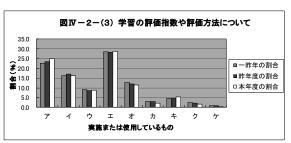
ア 評定 イ 評点 ウ ルーブリック エ 観点別評価

オ 自己評価 カ 生徒相互評価 キ パフォーマンス評価

ク ポートフォリオ評価 ケ その他

表Ⅳ-2 - (3) 学習の評価指数や評価方法について

	ア	1	ウ	I	オ	カ	+	ク	ケ	合計
北海道	16	6	3	15	5	1	4	1	0	51
東北	53	35	14	61	20	2	8	3	1	197
関東	71	39	19	86	33	7	8	6	0	269
北信越	32	22	12	39	16	3	10	2	0	136
東海	51	30	18	53	19	6	12	1	0	190
近 畿	42	26	20	48	13	5	16	6	3	179
中 国	41	26	21	49	17	4	9	3	0	170
四国	24	19	10	24	18	4	5	1	0	105
九州	65	57	24	80	39	4	12	6	1	288
合 計	395	260	141	455	180	36	84	29	5	1585
本年度の割合	24.9	16.4	8.9	28.7	11.4	2.3	5.3	1.8	0.3	100
昨年度の割合	23.5	17.0	8.7	28.3	11.9	3.0	4.5	2.2	0.9	100
一昨年の割合	22.6	16.4	9.2	28.4	12.7	2.9	4.6	2.4	0.8	100



「観点別評価」「評定」「評点」「自己評価」の順に多い。延べ回答数が1585件(昨年1627件、一昨年1653件)であり、昨年同様、多面的な評価を行う学校が多い。

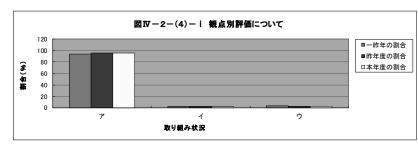
#### (4) 観点別評価について

i 観点別評価に取り組んでいますか。

ア 導入している イ 検討中 ウ 取り組んでいない

表IV-2-(4)-i 観点別評価について

	ア	1	ウ	合計
北海道	19	0	0	19
東北	69	1	2	72
関東	107	1	1	109
北信越	45	1	0	46
東海	63	2	2	67
近 畿	59	1	2	62
中国	53	1	5	59
四国	26	0	1	27
九 州	100	1	1	102
合 計	541	8	14	563
本年度の割合	96.1	1.4	2.5	100
昨年度の割合	95.6	2.3	2.1	100
一昨年の割合	94.4	2.5	3.1	100



# ii どのように取り入れていますか。

- ・論述やレポートの作成、発表、グループでの話合い、作品の制作等といった多様な活動 に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまら ない、多面的・多角的な評価を行う。
- ・授業への取組、姿勢、テスト、補習の状況などを総合的にとらえる評価をしている。
- ・3観点評価を元に100点法に換算し、成績処理等で活用している。
- ・学期内の定期考査の成績を含む授業等における学習活動を勘案した総合評価により各観 点をABCで表す。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で評価している。

ほとんどの学校で取り組んでいる。

#### 3. 学習指導・評価についてのまとめ

## (1) 授業評価について

生徒による授業評価を「実施している」は77.8%で、昨年度とほぼ同様の傾向である。「授業に還元できている」学校は81.1%と昨年を1.5ポイント増加しており、還元の内容は「授業の教授法の改善」が79.2%で最も多い。「地域の人や保護者による授業評価」は、「取り組んでいる」が42.7%、「取組はない」は48.7%と昨年度と同様であった。また、授業に還元できている割合は81.1%と昨年度より6ポイント増加している。

#### (2) 学習評価の改善について

学習評価の改善については、79.4%が学校全体で評価の改善に取り組んでいる。改善のための体制づくりを行っている学校は82.0%で昨年より0.6ポイント増加した。また、評価指標や評価方法については、「観点別評価」「評定」「評点」「自己評価」の割合が高く、昨年同様、多角的な評価を取り入れる学校が多い。

観点別評価については、新学習指導要領実施から4年目となり、ほとんどの学校で導入している。

# あとがき

現代社会は、環境変化が激しく、AIや情報技術の進展が加速する中で、将来を予測することが困難な時代である。このような状況下にあっても、産業界では、失敗を恐れずにチャレンジ精神を発揮し、正解のない中で最適解を見つけ、他者と協働しながら成長していける人材が求められていることは確かである。これらの要請に応えるため、私たち教職員は、工業教育の歴史の中で培ってきた知見や経験を最大限に活用し、生徒が卒業までに身に付けるべき資質や能力を明確化する必要がある。また、各学校が地域社会とのつながりを深めつつ、教育課程を適切に設計・運用することも重要である。

こうした取組は、新学習指導要領に掲げられている「社会に開かれた教育課程」という理念にも通じる。これは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、学校が生徒に社会で求められる資質・能力を育成するために必要な学びを明確化・実践することを示している。具体的には、情報活用能力や問題解決能力など学習の基盤となる能力育成の観点から教科間の横断的な教育活動の導入や、観点別評価の活用による教師側と生徒側双方の改善を図るPDCAサイクルの確立、地域の教育資源の活用といった地域社会との連携・協働の推進を図るなどの様々な取組が必要である。

このように、教育課程を中心に据えた多様な取組を通じて、カリキュラム・マネジメントを確立することが求められる中、本調査報告書が、これからの工業教育の進展に向けた指針となり、地域や産業界との連携・協働の深化、特色ある学校づくり、生徒たちの豊かな人間性の育成に貢献することを願っている。

また、これからの人づくりには、ウェルビーイングの観点を取り入れることが必要である。ウェルビーイングとは、心身の健康が保たれ、社会全体も健全かつ良好な状態にあることを指す。まずは私たち教職員がウェルビーイングを意識しつつ、カリキュラム・マネジメントを実現することで、生徒や保護者が健全な社会の中で幸せな生活を継続できるよう環境を整えていくことが大切である。

結びに当たり、本調査に御協力いただいた会員校の関係各位に御礼を申し上げるとともに、全 国工業高等学校長協会と会員校の更なる発展、会員の皆様の御健勝を心から祈念する。

資 料

調查•回答用紙

昭和57年度以降の工業に関する学科新設及び廃止状況

年度別調査項目一覧表

### 2025年度 教育課程委員会調査用紙(悉皆調査1)

ログアウト <u>学校ポータルに戻る</u>

#### 研究主題「教育課程」に関する調査

#### 〔入力上の注意〕

(1)調査対象校は、全日制課程を設置する学校〔全日制・定時制併設校にあっては全日制課程のみ〕です。

定時制課程については独立校のみです。

- (2)複数の大学科を設置している学校は工業学科について回答してください。
- ③総合学科高校は回答可能部分で入力をお願いします。
- (4)回答途中で5分以上未入力が続くと、データが登録されません。ご注意下さい。
- (5)データ入力を中断する場合は「ログアウト」をおしてから退席してください。そこまでのデータは登録されています。再度入力する際にはログインしなおしてください。
- (6)回答が完了したら「回答完了」ボタンを押してください。
  - I 教育課程に関する調査
- 1 教育課程の実施について伺います。

(1)	組成 トル	N其本めた老・	え方は何ですか。	(2つに由)

□ ア. 基	礎的な学力の定着	□ イ. 専門的な技術・技能	改育の充実 🗌	〕ウ、キャリア教育	の推進 □エ	大学等進学希望者へ	-の対応 🗌 オ.	グローバ
への対応	□ カ. 産業界との	連携 🗌 キ. その他						
(2) 教育誤	<b>果程の実施にあた</b>	って、特に取り組む内容は	は何ですか。(3	つ以内)				
□ ア. 基	礎的・基本的な知識2	及び技術の確実な習得と活用	□ イ. 学習習	慣の確立 🔲 🕆	<ol><li>伝統や文化に関</li></ol>	■する教育 □ エ.	環境保全に関する教	教育 [

オ. 自他の生命を尊重する精神の涵養 🗌 カ. 食育の推進 🗎 キ. 安全教育の推進 🗎 ク. 言語能力の育成 🗎 ケ. 理数教育 📗 コ. 道徳教育 [

- (3) 卒業までの履修単位について伺います。
- ① 学科・コースによって異なる場合は単位数を代表的な学科・コースについて単位数を記入してください。

サ. 外国語教育 🗌 シ. 職業教育 🗎 ス. 主権者教育 🗎 セ. 消費者教育 🗎 ソ. 情報教育 🗎 タ. その他

	全員履修和	斗目単位数	選択科目単	i位数(最大)	総合的な探究の時間の単位数	理り ロック 単位 数 ( 化 扶 た 合 む )
	共通科目	専門科目	共通科目	専門科目	に	
総計	単位	単位	単位	単位	単位	単位

② 3年間または4年間の履修総単位数は何単位ですか。

単位(HR活動の時間数を含んで回答してください)

③ 卒業に必要な科目の修得単位数は何単位ですか。

単位

- (4) 新学習指導要領における数学と理科の履修単位数について伺います。
- 注:選択の有無により単位数が変わるかと思います。選択した場合の単位数で回答してください。
- ① 実施予定単位の検討状況を教えてください。
- ア. 決定済 イ. 検討中
- ② 数学の予定または決定の単位数をお答えください。

数学 I	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学C
単位	単位	単位	単位	単位	単位

③ 理科の予定または決定の単位数をお答えください。

科学と人間生活	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学
単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位

- (5) 進学希望者の指導について
- ① 進学希望者の指導について教育課程上の対応をしていますか。

○ ア. はい ○ イ. いいえ

- ② ①でアと回答した学校に伺います。
  - i どのような対応をしていますか。(複数回答可)

<ul> <li>□ ア. 選択教科</li> <li>□ イ. コース又は類型で指導</li> <li>□ ウ. その他</li> <li>ii i でアと回答した場合の選択教科・科目名(複数回答可)</li> <li>□ ア. 国語</li> <li>□ イ. 数学</li> <li>□ ウ. 英語</li> <li>□ エ. 物理</li> <li>□ オ. 化学</li> <li>□ カ. 地歴・2</li> <li>iii i でアと回答した場合の進学を考慮した3年間での選択教科・科目の単位数</li> <li>○ ア. 4単位以下</li> <li>○ イ. 6単位以下</li> <li>○ ウ. 8単位以下</li> <li>○ エ. 10単位以下</li> <li>○ オ</li> <li>③ 教育課程以外で何か対応していますか。</li> <li>○ ア. はい</li> <li>○ イ. いいえ</li> </ul>	
④ ③でアと回答した学校に伺います。 i どの時期に対応をしていますか。(複数回答可) □ ア. 早朝もしくは放課後の課外授業で対応 □ イ. 長期休業中 □ ウ. その他 ii i でアと回答した場合の選択教科・科目名(複数回答可) □ ア. 国語 □ イ. 数学 □ ウ. 英語 □ エ. 物理 □ オ. 化学 □ カ. 地歴・2	公民 □ キ. その他
<ul><li>(6) 大学入試、外部検定試験について</li><li>① 大学入学共通テストを受験していますか。</li><li>○ ア. はい ○ イ. いいえ</li></ul>	
② ①でアと回答した学校に伺います。 i 昨年度の受験者は何名ですか。(過年度卒も含む) ○ア. 5名以内 ○イ. 6名から10名 ○ウ. 11名以上 ○ウ. 21名以上 ii どのような対応をしていますか。 ○ア. 教育課程上で対応 ○ イ. 教育課程以外で対応	
(7) ICT教育・情報化教育の取り組みについて ① ICT機器の活用について 工業専門科目の座学で、ICT機器の活用についてお答えください。 ○ ア. よく活用している ○ イ. 少し活用している ○ ウ. あまり活用していない ○ エ. ② ①でア、イと回答した学校に伺います。	全く活用していない
i.活用しているICT機器についてお答えください。活用方法ではありません。(複数回答可)  「ア. プロジェクタ 「イ. タブレット 」ウ. 電子黒板 「エ. スマートフォン 」オ.    ・ その他  ii.ICTを活用した授業の具体例についてお答えください(複数回答可能)	デジタルカメラ(ビデオ) 🗌 カ. 書画カメラ(実物投影機,
<ul> <li>□ ア. プロジェクタ、書画カメラによる教材提示</li> <li>□ イ. タブレット、スマートフォンを活用しての資料検索や調べ学習</li> <li>□ ウ. タブレットを活用したプレゼンテーションや意見発表</li> <li>□ エ. デジタルカメラ、ビデオを活用した動画提示</li> <li>□ オ. タブレット、スマートフォンを活用した個別学習</li> </ul>	
<ul><li>□ カ. その他</li><li>③ IoT技術についての取り組みはありますか。</li><li>○ ア. はい ○ イ. いいえ</li><li>④ ③でアと回答した学校に伺います。</li><li>具体的な取り組みをお答えください。</li></ul>	
<ul><li>⑤ 人工知能(AI)についての取り組みはありますか。</li><li>○ ア. はい ○ イ. いいえ</li><li>⑥ ⑤でアと回答した学校に伺います。</li><li>具体的な取り組みをお答えください。</li></ul>	
<ul> <li>(8) 遠隔システムについて</li> <li>① 遠隔システムを利用した授業を行っていますか</li> <li>○ ア. はい ○ イ. いいえ</li> <li>② ①でアと回答した学校に伺います。</li> <li>具体的な状況を教えてください。</li> </ul>	

- (9) GIGAスクール構想に伴い一人一台端末が配備されるなど情報機器の整備が進んできました。
- ① あなたの学校では一人一台端末をどのように配備していますか

○ ア. 設直者(都迫附県寺)が配偏してくれる
○ イ. 設置者(都道府県等)が一部補助金を配り、個人あるいは学校単位で購入する
〇ウ. BYOD(生徒が自分の個人用端末を持ち込み)で使用する
② ①に伴い今まで活用していた計算機(電卓)を生徒に購入させますか
○ア. はい ○イ. いいえ
(10) 総合的な探究の時間について。
① 「総合的な探究の時間」すべてを課題研究で代替していますか?
○ ア. はい ○ イ. いいえ
② ①でイと回答した学校に伺います。「課題研究」の時間以外に1年次2年次に「総合的な探究の時間」において、どのような内容を実施しているか記述してくた。
LV <sub>o</sub>
Ⅱ 学校改革に関する調査
1 学校改革・活性化について
(1)学校改革・学校活性化で特に力を入れているものを伺います。(3つ以内)
□ ア. 学校の統合 □ イ. 学科の新設や改編 □ ウ. 入学者選抜の見直し □ エ. 特色ある教育課程の編成 □ オ. 学校評価 □ カ. 職員の意識
□ キ. ものづくり □ ク. 挨拶・服装・マナー指導 □ ケ. 進学指導 □ コ. 就職指導 □ サ. 資格指導 □ シ. 部活動 □ ス. 地域との連携
セ. 企業や他の教育機関との連携 リン. その他
(2) 職員の意識改革で特に力を入れているものを伺います。(3つ以内)
○ ア・企業の人を招いての研修会・懇談会 ○ イ・企業や他の教育機関の実施する講習会への派遣 ○ ウ・職員グループによる学校の課題の研究 ○ エ・
評価システムの活用 🗌 オ. 保護者、地域への授業公開 🗋 カ. 管理職による職員への積極的な情報の提示 🗌 キ. その他
(3)長期休暇期間について伺います。
① 長期休業期間の短縮による授業設定の有無、及び授業設定日数について伺います。
○ア. 設定していない ○イ. 3日以内 ○ウ. 5日以内 ○エ. 10日以内 ○オ. 15日以内 ○カ. 20日以内 ○キ. 20日を超える
② 授業の内容
<ul><li>○ ア. 通常日課の授業</li><li>○ イ. 資格取得のための特別授業</li><li>○ ウ. その他</li></ul>
(4) 学校目標・学校評価・グランドデザインについて伺います。
① 学校目標・グランドデザインを設定していますか。
<ul><li>○ ア. はい ○ イ. いいえ</li></ul>
② ①でア「はい」と回答した学校に伺います。設定する学校目標の柱は何ですか(3つ以内)
□ ア. 教科指導 □ イ. 教科外指導 □ ウ. 学校運営 □ エ. 生徒指導 □ オ. 地域連携 □ カ. その他
③ 学校評価について伺います
i . 評価の仕方はどのようにしていますか?(活用しているものすべて)
□ ア. 生徒評価 □ イ. 保護者評価 □ ウ. 学校評議員評価 □ エ. 地域住民による評価 □ オ. 教職員評価 □ カ. その他
ii . どのように活用していますか
□ ア. 次年度の学校目標設定に活かす □ イ. 生徒指導に活かす □ ウ. 学校PRに活用する □ エ. 学校運営の改善に活かす □ オ. その他
Ⅲ 産学連携・地域連携に関する調査
Ⅲ 度子達防・心々達防に関する副目 学習指導要領では、産業現場等における実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けることが謳われています。このことを踏まえ、現在のインターンシップへの取組
今後の取組についてお答えください。
なお、本調査では、デュアルシステムとは連続であれば1ヶ月以上、週ごとであれば3ヶ月以上の就業体験とします。
1 インターンシップについて
(1) インターンシップの実施について伺います。
○ ア. 実施している   ○ イ. 検討中   ○ ウ. 実施していない
(2)(1)でアと回答した学校に伺います。(対象生徒が複数回実施している場合は主なもの)
(1) 実施学年
○ア. 1年 ○ 1. 2年 ○ ウ. 3年 ○ ェ. 4年 ○ オ. その他
○ 7. 14 ○ 7. 24 ○ 7. 34 ○ 1. 44 ○ 7. その他 ② 参加者
○ア. 学年全員 ○イ. 科の生徒全員 ○ウ. 一部の生徒
③ 実施時期 ○ <b>元 原型 (大型 大型 大</b>
○ ア. 長期休業中 ○ イ. 授業日 │ 月

<ul><li>○ア. 3日以内</li><li>○イ. 4~5日</li><li>○ウ. 1~2週間</li><li>○エ. 2週間以上</li><li>⑤ 卒業の単位として認定の有無</li><li>○ア. する</li><li>○イ. しない</li></ul>
<ul> <li>⑥ 実施上の問題点はどんなことですか。(3つ以内)</li> <li>□ ア. 受け入れ企業の問題 □ イ. 事前・事後の打合せ □ ウ. 校内指導体制 □ エ. カリキュラムとの関連 □ オ. 安全対策 □ カ. その他</li> <li>(3) (1)でイまたはウと回答した学校に伺います。</li> <li>イ. ンターシップが実施できない理由は何ですか。(複数回答可)</li> <li>□ ア. 地域に企業が少ない □ イ. 費用 □ ウ. 指導体制 □ エ. 日程 □ オ. その他</li> </ul>
(4) 2024年度以降の実施対象者について(全ての学校に伺います) ○ ア. 全員に実施している ○ イ. 一部の生徒に実施する ○ ウ. 全く実施しない
デュアルシステムについて (1) デュアルシステムの実施について伺います。
(2) (1)でアと回答した学校に伺います。 ① 実施形態 ○ ア. 長期休業中に実施 ○ イ. 科目に割り当て週毎に実施 ○ ウ. その他 ② 実施学年 ○ ア. 1年 ○ イ. 2年 ○ ウ. 3年 ○ エ. 4年 ○ オ. 1~2年 ○ カ. 2~3年 ○ キ. 3~4年 ○ ク. 3年間以上
<ul><li>○ ケ. 14 ○ イ. 24 ○ ゲ. 34 ○ エ. 44 ○ ガ. 1624 ○ ガ. 2634 ○ イ. 3644 ○ ゲ. 34 前 Ø エ. 3 参加者</li><li>○ ア. 学年全員 ○ イ. 科の生徒全員 ○ ウ. 一部の生徒</li><li>④ 実施期間</li></ul>
<ul><li>○ア. 1~2ヶ月程度</li><li>○イ. 3ヶ月程度</li><li>○ウ. 半年程度</li><li>○エ. 1年以上</li><li>⑤ 卒業の単位としての認定の有無</li><li>○ア. する</li><li>○イ. しない</li></ul>
(3) (1)でイと回答した学校に伺います。 実施上の問題点についてお答えください。(複数回答可) ア. 受け入れ企業が少ないから
地域との連携について (1) 生徒による地域活動を実施していますか。
(2) (1) でアと回答した学校に伺います。 ① 主たる目的(3つ以内) □ ア. 生徒の地域理解 □ イ. 地域の学校理解 □ ウ. 学校のPR □ エ. 郷土愛の育成 □ オ. 地域貢献 □ カ. その他 ② 活動内容(3つ以内)
<ul><li>□ ア. 清掃活動</li><li>□ イ. 福祉施設等への訪問</li><li>□ ウ. イベント[祭りなど]への参加</li><li>□ エ. 交通安全指導</li><li>□ オ. ものづくり教室</li><li>□ カ. 出前授業</li><li>□ キ. その他</li></ul>
(3) 地域の力を生徒の技術指導に活かすことを実施していますか。 ○ ア. 実施している ○ イ. 検討中(する方向で) ○ ウ. 実施していない
(4) (3) でア、イと回答した学校に伺います。 ① 地域のカの対象(複数回答可) □ ア・地場企業 □ イ・地域住民 □ ウ・近隣の大学・高専等 □ エ・その他
② 実施時期(複数回答可)  □ ア. 授業中 □ イ. 放課後 □ ウ. 長期休業中 □ エ. 週休日 □ オ. その他
<ul> <li>(5) 総合的な探究の時間(又は課題研究)で、地域や外部機関との連携を行っていますか。</li> <li>① ア. 実施している ○ イ. 討中(実施する方向で) ○ ウ. 実施していない</li> <li>② ①でアと回答された学校に伺います。実施時期(複数回答可)</li> <li>□ ア. 授業中 □ イ. 放課後 □ ウ. 長期休暇中 □ エ. 週休日 □ オ. その他</li> </ul>
<ul> <li>4 高・大学等連携について</li> <li>(1) 大学や専門学校等との連携を実施していますか。</li> <li>○ ア. 実施している ○ イ. 検討中(する方向で) ○ ウ. 実施していない</li> </ul>

④ 実施期間

(2)(1)でアと回答した学校に伺います。

□ ア. 単位の修得 □ イ. 知識・技術的な支援 □ ウ. 授業補助(チューター) □ エ. 施設利用 □ オ. その他	
<ul><li>② 実施場所(複数回答可)</li><li>□ ア. 連携先で実施</li><li>□ ローラー・ローラー・ローラー・ローラー・ローラー・ローラー・ローラー・ローラー</li></ul>	
- 7. Zijani (Alie - 1). 1 K (Alie - 1). (Will	
5 学校開放講座について	
(1) 学校開放講座を実施していますか。	
○ ア. 実施している ○ イ. 検討中 ○ ウ. 実施していない	
(2)(1)でアと回答した学校に伺います。	
① 対象者(複数回答可)	
<ul><li>□ ア. 小学生</li><li>□ 寸. 高校生</li><li>□ エ. 保護者</li><li>□ オ. 一般人</li><li>□ カ. その他</li><li>② 内容(複数回答可)</li></ul>	
<ul><li>□ ア. ものづくり</li><li>□ イ. パソコン</li><li>□ ウ. CAD</li><li>□ エ. その他</li></ul>	
○ ア. 5日以下 ○ イ. 10日以下 ○ ウ. 11日以上	
IV 学習指導・評価に関する調査	
1 生徒による授業評価について	
(1) 生徒による授業評価を実施していますか。 ○ ア. 実施している ○ イ. 検討中 ○ ウ. 実施していない	
(2)(1)でアと答えた学校に伺います。	
i.授業に還元できていますか ○ ア. できている ○ イ. できていない ○ ウ. どちらともいえない	
ii. iでアと答えた学校に伺います。どのように還元できていますか	○ ★ その他
O 7. IXAVAIXAVAR O 1. TROFFEE ROAD	O 7. CO/IE
(3) 地域の人や保護者による授業評価に取り組んでいますか。	
○ ア. 取り組んでいる ○ イ. 検討中 ○ ウ. 取組はない	
(4) (3)でアと答えた学校に伺います。	
授業に還元できていますか。	
○ ア. できている   ○ イ. できていない   ○ ウ. どちらともいえない	
2 学習評価の改善について	
(1) 学校全体で評価の改善に取り組んでいますか。	
○ ア. 学校全体で取り組んでいる ○ イ. 一部で取り組んでいる ○ ウ. 取り組んでいない	
(2) 改善のための体制づくりを行っていますか。	
○ ア. 行っている ○ イ. 行っていない	
(3) 実施または使用している評価指標や評価方法をお答えください。(複数回答可)	
□ ア. 評定 □ イ. 評点 □ ウ. ルーブリック □ エ. 観点別評価 □ オ. 自己評価 □ カ. 生徒相互評価	□ キ. パフォーマンス評価
ートフォリオ評価 🗌 ケ. その他	
(4) 観点別評価について伺います	
i.観点別評価に取り組んでいますか	
○ ア. 導入している   ○ イ. 検討中   ○ ウ. 取り組んでいない	
ii.どのように取り入れていますか。記述してください。	
2025年度 学校経営委員会調査項目(悉皆調査1)	
	(2025年4月1日現在(
V 工業科教員の再任用に関する調査(悉皆調査)	
(この調査項目 V は各会員校の校長先生にお願いするものです) 平成14年度より定年退職者の希望者を対象に再任用制度が導入されていますが、新規採用にも影響がでるものと考えられます。	若い教員が不足している現在。今後
業教育を推進していく上でも重要な課題であると考えます。この調査は各都道府県の現状を把握し、新規採用教諭確保をどのような	
資料とするものです。	
あなたの学校で、2024年度末における工業科教諭の退職者は何名ですか 名	
そのうち再雇用ではなく、再任用教諭になったのは何名ですかる名	

名

2025年度の工業科教諭での新規採用教諭は何名ですか

ĺ	注〕
1	定時

- 1.定時制、通信制併設の場合は、合計数を記入してください。
- 2.工業科教諭とは管理職以外の教員です。
- 3.再任用教諭とは、各学校の工業科教諭の定数枠に算入されることを基本とする、以下の方々です。

(教諭・主任教諭・指導教諭・主幹教諭)

②瑪	現役教諭と同等の勤務条件である教諭 現役教諭の8割程度の勤務条件で、定数枠は0.5人分として算入される教諭
<b>記</b>	地域との連携等に関する調査(悉皆調査1) 順査表入力上の注意 1)この調査は、各都道府県における中学校等へのPRや地域との連携に関する調査です。 2)この調査は、入学対策委員会の調査項目です。
1 :	学校PRの形態について
	<ul><li>1)次の各項目について、取り組んでいるものをチェックしてください。</li><li>□ ア. 学校案内パンフレット □ イ. 体験入学 ホームページ □ ウ. 学校説明会 □ エ. 中学校訪問 □ オ. 生徒研究発表会 □ カラック カラック ロック ロック ロック ロック ロック ロック ロック ロック ロック ロ</li></ul>
	<ul><li>□ ケ. 学校紹介ビデオ ポスター</li><li>□ コ. 親子ものづくり教室</li><li>□ セ. 中学校での出前文化祭</li></ul>
(	2)その他特徴的な取り組みがあれば、ご入力ください。
	地域との連携について 1)特徴的な取り組みがあれば、実施内容をご入力ください。
	実施内容
VII	次年度のアンケート項目に関して、ご要望があれば記述してください。
	回答完了

### 昭和57年度以降の工業に関する学科新設状況(名称変更も含む)

〈全工協会全国工業高等学校要覧より〉

新設学科名   13   14   15   16   17   18   19   20   21   22   23   24   25   26   27   28   29   30   R1   R2   R3   R4   R5   R6   R7   R8   R7   R7																						〈全工	協会全	工国生	業高等	学校要	覧より〉
現在工学	<b>车孙学</b> 到 夕		1.4	15	16	17	10	10	20	9.1	22	99	24	25	26	27	20	20	20	D1	Do	D2	D4	DE	DG	D7	計
# 子様は子子 2 2 2 1 1 4 4 1 1 4 6 7 2 1 1 1 2 1 2 1 3 5 5 2 8 4 1 1 1 3 6 7 3 8 5 1 1 1 2 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		度以降	14	19	10	17	10	19	20	21	22	43	24	۷5	20	21	40	29	30	П	KΔ	СЛ	Κ4	СЭ	NO	Κí	
Tags   Type	幾械工学			1	11	2	2			1			1			3	2		2	1	1	1		1			22
開献 2 2 2 2 1 3 4 1 4 1 1 1 3 5 5 2 8 5 1 1 2 3 5 5 2 8 1 1 1 2 3 5 2 8 1 1 1 2 3 5 2 8 1 1 1 2 3 5 2 8 1 1 1 2 3 5 2 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>				-					1						1				1			1				4
本語	<u> </u>	2	2	2	1	3	4	1	4		1	1	4	6	7	2	1		1	1		3		5		8	60
1	<b>工業</b>					1									3		1				2	1			1		22
Tay Note	工業系列学																									1	1
日本子・アンス					-						1	1	11								2	6	4	1	1	9	17 3
Taylor	<u>- ハッドス州</u> コボティクス																								1	J	ე 1
無数様子 ・	里数化学																								ī	1	2
### 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	電子				1									1	1										1		4
電気性報	<u> </u>							1								1	1			_11					1		6
常名工学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>		1		-	2	1	1	1		1		1								0	0		1	1		4
確保 フェンジーア	<u> </u>		1	1		ა 1	1	1	1	1	1		1			1	1		1				1		1		16 9
開発的エイター		1	1	1	1	3	3			1	1	1	4	5	6	1	1	1	1			1	1	2	1	5	37
開発エンジニアリング (計画 1															-							-			1		1
及当サービス																									1		Î
T業庁グルジー T教育 9 1 5 2 1 1 2 1 2 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				1			1												1	1					1		5
養養育甲化・																											1
監察子ザイン 徳市工学   1		0		- 1		-	0	1			- 1		0	1	0	_	1	-				- 1		1			1
審養子サイン 都市工学		9		1				2			1			1		Э	1	1			1	- 1	1	2			34 15
整整を用字 接触で表生やテリア丁学 機能で表生学 11・環境 動能形成権権 動能形成技権 動能形成とデース 2・2 何能主学 11・フェース 2・3 何能主学 2・4 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7 8 7	<u> 単条 / リイン</u>										1										1	J	1		1	7	7
機能工学・大工学 機能工業化学 「一環境 「	事 事 禁 記 能 工 学																								1		i
1	建築工学、土木工学																								1		1
T. 環接	<b>建築インテリア工学</b>																								1		1
福祉環境		-	-	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	-		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	-	-	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>		-	-	1	<b> </b>	1
電市防災技術 使品サイエシス 574制造工学 アーキアかト 工業科タルチェンジニア ス対・ニカルエンジニア 対かニカルエンジニア 対かニカルエンジニア 対かニカルエンジニア 対かニカルエンジニア 対かニカルエンジニア は																									1		1
食品サイエンス   1			<b>-</b>						1		<b>-</b>	1				<b>-</b>	<b>-</b>						<b>-</b>	<b>-</b>	1		1
1						1	1			1			1						1		1				1		1
T	ライ創造工学																								1		1
T学系	アーキテクト																								1		1
ロボットエンジニア															-										1	0	1
大力トロニクス系列					-										1									1		2	3
大力トロニクス系列																								1			1
総合								1																1			1
情報技術 2 1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 2 6 1 1 1 1	※合								1	4			2	1	1	5								1		13	28
建築	青報技術					2		1						1	1									1			9
科学技術							1																				1
ITエンジニア	<u> </u>	1				1	1							2	1							1	1			6	18
ELエンジニア AIテクロジー 情報通信系列 情報差ティア 化学工学 ロボット電気 ロボットシステム ロボットシステム ロボット技術 理数工学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<u> </u>			2		1	1						1											1			6
AIテク/ロジー 情報通信系列 情報を発 に対すり電気 ロボット・システム ロボット・システム ロボット・大術 理数工学 担工環境 担工科 担工 シニバーサルデザイン やまがた創造工学 東島科学 ものづくり創造専攻 ものづくり創造専攻 ものづくり機械 ものづくり ものづくりで ものづくりで ものづくりで ものづくりで ものづくりで ものづくりで ものづくりで カーカージャディン マース・アイン マース マース マース マース マース マース マース マース マース マース																								1			1
情報通信系列 情報メディア に学工学 ロボット電気 ロボット支術 理数工学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	AIテクノロジー																							1			1
情報メディア	青報通信系列														1												i
ロボットシステム     1       ロボットシステム     1       ロボット支術     1       理数工学     1       理工環境     1       理工科     1       理工     1       フェバーサルデザイン     1       やまがた創造工学     1       東品科学     1       ものづくり創造専攻     1       ものづくり機械     1       ものづくり工学     2       メカニック分野     1       メカトロニクス     2       マルチメディア系列     1	青報メディア														1												Ī
ロボット支标	上学工学														1												1
ロボット技術       理数工学     1       理工環境     1       理工科     1       理工     1       ユニバーサルデザイン     1       やまがた創造工学     1       薬品科学     1       ものづくり創造専攻     1       ものづくり機械     1       ものづくり工学     2       メカニック分野     1       マルチメディア系列     1																			1								1
理数工学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					-	1													1								1
理工環境			1									1				1	1		1							1	5
理工科 理工 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			1			1						-		1	1	1	1									1	3
ユニバーサルデザイン     1       やまがた創造工学     1       東品科学     1       ものづくり創造専攻     1       ものづくり機械     1       ものづくり工学     2       メカニック分野     1       メカトコーグス     2       マルチメディア系列     1								1						-													1
やまがた創造工学       1         東品科学       1         ものづくり間造専攻       1         ものづくり機械       1         ものづくり工学       2         おかニック分野       1         メカトローグス       2         マルチメディア系列       1																						1				1	2
薬品科学     1       ものづくり創造専攻     1       ものづくり機械     1       ものづくり工学     2       ものづくり工学     1       メカニック分野     1       メカトロニクス     2       マルチメディア系列     1						1																					1
ものづくり機械     1       ものづくり機械     1       ものづくり工学     2       よカニック分野     1       メカトコル工学     1       メカトロクス     2       マルチメディア系列     1	<u>でまがた創造上字</u>				-		1		1																		1
ものづくり機械 1 2 1 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	R四付子 のづくり創告車功			<b> </b>	<b> </b>		1	<b> </b>					-		<b> </b>			<b> </b>	1		-						1
ものづくり ものづくり工学 メカニック分野 メカニカル工学 メカトロクス 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ラン・フィック 日本 サウン・ファック でんり 機械					l -	l -			l -	1		l -						1		l -						1
ものづくり工学 1 メカニック分野 1 1	5のづくり			L	L			L			Ľ				2			_1						L	L		3
メカニカル工学     1       メカトロニクス     2     1       マルチメディア系列     1	っのづくり工学																									1	1
メカトロニクス     2     1       マルチメディア系列     1								1																			1
マルチメディア系列				9	<b> </b>	-	-	1		-			-		<u> </u>			<u> </u>	-		-	1					3
					<b> </b>			1							-			-									<u>ქ</u>
	<u>ヾノレ ノ ^ / 1 / ポクリ</u> プロダクトデザイン					l -	l -	1		l -			l -	1	1				l -		l -						2
プロダクト工学	プロダクト工学				1																						1
プロジェクト工学	プロジェクト工学															1	1										2
物質工学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	物質工学					1																				1	2
物質化学 1	勿質化学 177						<u> </u>													1							1
普通科ベーシック群 1	<u> </u>			<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	1_	<u> </u>		<u> </u>			<u> </u>		<u> </u>			<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>					-	1
普通科キャリアデザインコース工業系学 1 福祉情報 1		1	-	-	-	-	-	-		-	-		-		-			-	-		-			-	-	1	1
価値情報   1   1   1   1   1   1   1   1   1	<u> 田田田取</u> ファッション技術	1	<b>-</b>			1			1		<b>-</b>	1				<b>-</b>	<b>-</b>						<b>-</b>	<b>-</b>			1
レープンコン X m									1																		1
パワーエレクトロニクス	パワーエレクトロニクス			_1					L		L													L	L		<u> </u>
土木地質 1 1	土木地質	1																									1
十十大建築 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<b>土木建築</b>						1		1				1														3
土木環境システム 1	上木環境システム		1	ļ	ļ	ļ	ļ	ļ		ļ			ļ		ļ			ļ	-1		ļ						1
土木環境工学	<u> </u>	-	-	<u> </u>	<u> </u>	-	-	1		<u> </u>	-		0	1	<u> </u>	-	-	<u> </u>	1		<u> </u>	-	-	-	-	-	1 7
	<u> </u>			-	-	1	1	1		1	-		- 2	1	-			-	-	1	-	1		1	-		4
<u>  エグレ子                                     </u>	<u> </u>			<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	1	1	<del>                                     </del>		1			1		<del>                                     </del>			<del>                                     </del>	1	1	1	1		1			1
<u> </u>	<u></u>					1	<u> </u>																				1
工术環境 1	<del>王木環境</del>			L	L	Ľ		L		_1	L				L			L						L	L		î
都市システム	都市システム				1																						1
都市工学 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	邓市工学	1			1	2	1							1	1							4	1	1			13
都市基盤工学	<u>都市基盤工学</u>			ļ				ļ				1			ļ			ļ	4								1
都市環境システム	10 中 塚 現 ン 人 ア ム			l	l	l	l	l		l			l		l			l	1		l				<u> </u>		1

新設学科名	H13年 度以降	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
都市環境	1	1			1					1																4
都市・建築			ļ																	1					1	1
都市工学コース 都市住宅系学																									1	1
電子物質工学																					1					ī
電子電気	1						-																			1
電子情報技術 電子情報			2				1			1	1			1	1	1			1							8
電子システム	1	1			1																					3
電子工学					1				1			1		,	1	1									1	6
電子機械 電子・情報	3	2			1	1		1		1	1	3	1	1			1				1					17 2
電子情報システム	1				1			1					1													2
半導体情報																									1	ī
電気電子システム	1				1													1								2
電気テクノロジー 電気設備									1									1								1 1
電気情報システム	1						1											1							1	4
電気情報工学				1																1					1	3
電気情報系電気システム	2		1									1	1	1			1			2						8
電気建設システム			1								1	1	1	1												1
電気建設工学																		1								Î
電気系			1			2		-1																	$\Box$	2
電気技術類 電気技術	1	-	<b> </b>	-	-		-	1	<b> </b>	<b> </b>	-		-		-	-						1		-	$\vdash$	1 2
電気機械			L		L	1									L	L								L		1
電機応用工学			1																							1
電気エネルギー 電気・電子工学			-			1	-		-	-	-	1	-													1
電気・電子	1	1	1	2	2	1	l		<b> </b>	<b> </b>	l		l		<u> </u>	<u> </u>				1				<u> </u>	1	9
電気・情報技術			Ĺ			4								1												5
電気・建築			1					-1		2															1	3
電気・機械 電気・エネルギー	-	-	<b> </b>	-	-		-	1	<b> </b>	<b> </b>	-		-		-	-			1					-	$\vdash$	1
デュアルシステム				1															1							1
鉄道					1																					1
<u>デジタル工学</u> デザイン工学	1		1	1																					3	1 4
デザイン・絵画				1					1																3	1
デザイン				1			2		1			1	1	1												7
テクニカル工学				1									_													1
テキスタイルデザイン工学 テキスタイルデザイン	-		-				-	1	-	-	-		1												1	2
地域創造工学	L		L																	_1						1
創造工学								1									1	1							1	4
<u>創造技術</u> 創生工学	1		1			2													_1		1					3
剧生工子 総合電気電子システム					1																1					1
総合電気	1	1																								2
総合デザイン			-		-		2																			2
総合造形 総合情報			1		1	1																				2
総合工学			1			1	1																			3
総合工科															1	1										2
総合技術 総合科学類			3	1	2			-1	1	1		1			1	1										11
総合科学						1		1																		1
造形						•											1									Î
繊維デザイン										1												4				1
セラミック工学 セラミック化学	-		-				1		-	-	-		-									1			$\vdash$	1 1
セラミックアーツ	L	L	L	L	_ 1	L	Ľ	L	L	L					L	L	L		L					L		1
セラミック													1	1											2	4
設備・エネルギー 生産システム	1	1	<b> </b>				1		<b> </b>	1	-		-												$\vdash \vdash$	3
生産エ学	1	1					1	1																		1
生産技術		3									1															4
生産機械	1	1																							1	1
制御情報制御工学	1	1			1		<del>                                     </del>		<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	1	<del>                                     </del>		1	1		1							1	<u>2</u> 6
制御技術		1	L												L			1							1	1
生活文化																	1						1			2
生活工学			<b> </b>				1							1												1
数理工学 数理							1	1	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>		<del>                                     </del>													1
新素材工学								Ė									1									<u>1</u>
情報ビジネス				1																						1
情報電子系列 情報電子	1	1	1	1	1		1	1	<u> </u>	<u> </u>	<b> </b>		<b> </b>		-	1								-		1 7
情報電気	1	1	1	1	1			1								1										1
情報デザイン					1																3	1			1	6
情報テクノロジー	-												-					1							$\Box$	1
情報通信システム 情報通信工学	1	1	<del>                                     </del>	-	-		<b> </b>		<u> </u>	<u> </u>	<b> </b>		1		-	-								-		3
情報システム	1	1	1	1	1		1						1	1									1			6
情報技術分野							1						1													2
情報機械					1										1	1									$\Box$	2
情報環境 情報科学	1	1	-		2		-		-	-	-		-												$\vdash$	1 4
情報	1	1										1														1
情報制御																									1	1
住環境システム 自動車整備	-	<u> </u>	<del>                                     </del>	<u> </u>	1		0		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	1	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>								<u> </u>		1
日男甲金佣	<b>.</b>	L	1	Ь			2		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_1_	<u> </u>		L	L								Ь	ш	4

新設学科名	H13年 度以降	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
自動車機械システム	及以降		1																							1
自動車					2		1	1				1	1	1				2							1	9
自動車工学 システム情報								1																	1	1
システム工業						1											-									1
システム工学系 システム工学		1		1	1												1									3
システム機械			1																						1	2
システム化学 産業デザイン工学								_1														1				1
産業デザイン						1																1			1	3
産業工学 産業技術	1				1	1		1														1				3
産業革新	1				1	1									1	1										2
産業 材料設備		1				1		1																	8	10
材料技術		1							4								1								1	6
材料化学			1									1														2
コンピュータテクノロジ コンピュータAI			1														1									1
コミュニケーションシステム工学																			1							1
交通工学 工芸		1	1																							1
航空工学			1		1																					1
工業マイスター								1																		1
工業デザイン 工業技術類								1															<b> </b>		1	2
工業進学							4						-	0									1			Ī
工業化学 工業Ⅱ群						2	1						1	2											1	<u>5</u> 
工業I群						2																				2
工業Ⅱ類 工業システム						1																			1	1
工業創造																									1	1
工学 I 類													1				1								4	1
工学 建築ビジュアル					1												1								4	5 1
建築十木						3	1		1			1		1			1									8
建築都市工学 建築デザイン工学							1															1				1
建築設備					1												1					1				2
建築情報 建築システム	3	1 2	1																							1
建築工学	3		1			1	1		1														1			6 4
建築工学建築系						1	-																			1
建築技術系列 建築技術							1								1											1
建築環境	1	1	2																							4
建築学 建築インテリア				1	1	2													1				1		1	2 5
建築・電気				1	1	2									1	1									1	2
建築・建設 建築科(建築設備コース)														1											1	1
建設システム	1																	1							1	2
建設工業	0				0		1	1							1	1									1	1
建設工学 建設技術類	2				2			1							1	1									1	8
建設技術																1										1
建設環境 建設·電子						_1_			1																	1
建設			1	1			1	1		2		1	1	3									2		2	15
都市環境工学 クリエイティブデザイン	1				1																				1	1
金属工学									1																	1
教養·生活																	1			1		1				1 2
<u>教育情報</u> キャリアデザイン																			1							1
キャリア技術	1				1																					1
基礎工学機械ロボットシステム	1																	1							1	2
機械類								1		_				,												1
機械土木 機械土木工学	-	-	-		-					_1_			1	_1	-	-	-					1	-	-	1	4
機械電子														1											1	1
機械電気システム 機械電気	_				3	1	1											1	2						1 4	2 11
機械デザイン					J	1									L										4	11
機械テクノロジー系列	4						1											4								1
機械テクノロジー 機械テクニカル	1						1											_11								2 1
機械創造																			1	1		1				3
機械造船 機械制御		-	1		-				1						1	1	-		1			-	1			3
機械システム	4	2		2	_1			2	1			2			1	1				5					1	22
機械系						2		1									1									3
機械技術類機械技術		<b> </b>	<b> </b>		<b> </b>			1									<b> </b>					1	<b> </b>			<u>1</u>
機械加工				1												_										1
機械・ロボット機械・電子機械		-	-		-	1		1					2		1	1	1					-				2 5
機械•電気系						1		1					۷				1									1
機械・電気		1												1									1			2
機械・制御 機械・情報技術		1																			1					1
																•										<del></del>

新設学科名	H13年 度以降	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
機械・自動車						3																				3
機械・材料工学															1	1										2
機械・建築システム															-	_				1						1
機械・エネルギー										1																1
機械創造工学										-															3	3
システム機械																									1	1
環境ビジネス		1																							1	1
環境土木	1	1	2			1				1																5
環境デザイン	-					1		1										1				1				3
環境テクノロジ	+		1					1										1				1				ე 1
環境設備	1		1							1																2
現場 フェ /	1		1		- 1					1					-											
環境システム	4	-	1	-	1									-		-		-				-	1			6
環境工学系列	-	-		-	-							1		-	1	-		-				-	1			1
環境工学			-									1			1	1										3
環境建築			1				-																			1
環境建設工学				_			1																			1
環境建設	1	1		1																						3
環境技術	1				1			1	1																	4
環境化学システム						1																				1
環境科学、デザイン																							1			1
環境科学																					4	4	1			9
環境化学	4	1	1	_ 1	1					1																9
環境エネルギー				1									1	1												3
環境サイエンス																									1	1
画像工学·電子情報						1																				1
化学創造																						1				1
化学工業													1	1												2
科学工学				1									1													2
化学系						1																				1
化学技術				1		1	1																			3
化学							1																1			2
オートモビル工学				1																			_			1
応用デザイン			2																							2
応用技術	1																									1
応用化学工学															1	1										2
エネルギー技術								1							1											1
インテリアデザイン	+							1												1						1
インフリアフリイン インテリア	-																			1			1			i
インテリア・建築	-					1																	1			1
意匠情報						1	1																			1
RELIENTE IT工学	+	-		-	-		1							-		-		-			4	9				7
<u>Ⅱ                                    </u>	+		-												1						4	3				1
	-	-		-	-									-	1	-		-				-			1	1
商工		0.5	41	0.1	7.5	00	40	0.0	0.5	00		40	40		40	0.0	10	- 00	1.0	00		00	4.1	0.7	1	1005
合 計	63	35	41	31	75	69	43	38	25	22	9	40	43	52	43	26	18	23	16	23	44	29	41	37	119	1005
累計	63	98	139	170	245	314	357	395	420	442	451	491	534	586	629	655	673	696	712	735	779	808	849	886	1005	

### 昭和57年度以降の工業に関する学科廃止状況(名称変更も含む)

〈全工協会全国工業高等学校要覧より〉

																					〈全工	協会全	国工第	<b>美高等</b>	学校要	覧より〉
廃止学科名	H13年	Ш14	Ш15	Ш16	Ц17	Ц10	ш	บาก	LI91	ப்வ	поэ	LIOA	LOE	ப்வ	U97	H28	LISO	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
	度以降	1114	1113	1110	1117		1119			1122	1123	1124	1123	1120	1141	1120	1129	1130	I\1	1\2	No	114	Ko	NO	IX /	
機械電気	42	18	25	7	16	20	20	21	8	9	5	8	4	4	- 8	5	5	4	4	8	4	5	7	6	2	265
电风 電子機械	30 7	23 8	17 4	5 4	14 9	27 13	22 5	19 5	6	6	1	7	3	3	4	2	3	5 4	3	8	4 11	4	5 9	3 6	1	224 114
建築	10	10	5	4	- 8	12		9	6	5	2	3	1	3	1	2	3		- Î	Ŭ	6	Î	3	3	2	100
主大	9 14	5 5	6 7	5 5	5 10	8 5	3	8	3	5 2	1	3	1	1_	1	1		2	1	3	4		3		1	73 68
電子 工業 情報技術 工業化学		2			3			Т					15	19	5	2	1		1	1	1		6	6	7	67
情報技術	4 11	6	3 12	2	3	8 10	6	1	3	9		2			3	1	1	3	3	1	7	2	7		1	60 57
	1	0	2	2	1	10	5	2		1	1	2	2	1	2		1	1		1				1		27
化学工業	2	2	3	Į.	2		3				Ţ,	Ţ.	_		Ţ,		î				3	2	3			22
機械システム インテリア	1 1	3	2	3	2 4	4	1	5	1	1	1	1	2	2	_1_				1		_1_		1	3	5	26 23
<b>工光针法</b>	1					1		1	1			1	1	1				1	1		3	1		8	ĩ	21
建設 デザイン 総合技術			1	1	2		8	1	1		1	1	3	1	-1		9	2		1		9		1	1	21
総合技術	3		1	1	1		2	2	1			1	2	1	_1_		3	1		2		2		1	4	19 14
笛十二子	Ĩ					1	2			1			1	Î	1				1	2	1		1		1	14
環境化学電子情報	2	1	1_		1	2	1	1			1		1	2	11										2	9 11
電子情報 都市工学	1	1	1			1	1	1			2	1	1	1	1										2	11
情報システム 化学工学 設備工業		-			1	9	1	-					1		1			2			1		1			- 8
設備工業		1			1	3	2	1		1	1										_1_					8
機械   字						2	Ĩ				Î		1	1	1										1	- 8
情報電子 工業デザイン	3	1	<del>                                     </del>	1	1	1	1	1					1	-	_1_										1	8 7
<u> </u>	1			1	1	1							1													7
工業系字 建設工学						1	1		1		1	1	1		-		-					1		2		6
セラミック 建築工学			1			1	1	3		1					1		1					1	1	1		6
新衛士臺 情報科学			L					Ľ			1		2	2	1		_								1	7
情報科学 博報	1	1	1				1			-			1	1	2	1	1	<b> </b>		1		1		-		6
情報 環境建設	1	1				_1							1	1			1					_1		_1		5
環境工学					1		1				9		-	1	1		-						1		1	6
環境工学 電気情報 建設システム	2	2.	1				1			<b> </b>	2		1	1			1	$\vdash$						<b> </b>	1	6 5
	Ĩ	Ĩ				2				1																5
電子工業	2					2		_111													1	1	1	1	1	5 5
環境技術 自動車工学					1	1	1														1			1	2	6
電気システム														1	1							1		1		4
土木工学 システム工学						1		1							1	2	1						1			4
理数工学																		1		2			1		3	$\dot{7}$
化学技術 環境システム	1	_11		1	1	_1	1		1										1							4
機械・電気				1	1			1	1			1			1		1		1						1	5
材料技術						1	1	1		1																4
生産システム 浩船		1	1		1			1									1									4
造船 工学																								3		3
電気電子 化学システム テキスタイルデザイン						1				11									1			1		1	2	5 3
テキスタイルデザイン						1		1														1		1		3
電気情報システム			1			-											1						- 1	1	1	4
土木建築 創造工学						1										1				1	1		1 1			3
製合学 建築環境 化学・デザイン 機械技術																_		2					1		2	5
建築環境									1	1	1	1		2												3
機械技術			1		1	1					1															3
父:用上字		1		1	1										0											3
情報コミュニケーション 繊維工学		1				1						1			2											3
電気エネルギ	1	1				1	1											1								3
メカトロニクス メカトロニクス系列	ļ <u> </u>		<del>                                     </del>	$\vdash$	$\vdash$		$\vdash$	$\vdash$		$\vdash$	$\vdash$				1			$\vdash \exists$						1	1	2
メカトロ・エンジニア系列学	1		1																						2	2
母気デザイン														-	1									1		2
電子システム 物質工学 物質化学	1		<del>                                     </del>				-			1				1				$\vdash$			1		1	1	1	3
<u>物質正学</u>			L																				Ţ.		î	1
金属工業電気技術			1	1	1		<b> </b>			1													1	1		2
産業デザイン	<u> </u>	L	L			L	L	2	L	L	L											L	L		2	4
産業デザイン 建設技術			1				1					1			1										1	2
システム化学 普通							1			1														1	3	3
メカニック								1										1							Ľ	2
理工 化学応用	1	1	<u> </u>		1					-					_1_			$\vdash$							1	3 2
環境・電気情報システム	2	1	<del>                                     </del>																							2
環境科学	Ĺ						_	1			1															2
環境十木 機械電気			<del>                                     </del>			1	1			-			11	1				$\vdash$						-	1	3
<b> </b> グラフィックアーツ					1	1								1											1	2
建設デザイン			<u> </u>		1										1											2
工業 【 群 コンピュタ応用技術	<b> </b>		<b>!</b>	1	1		<del>                                     </del>			<del>                                     </del>					2									<del>                                     </del>		2
産業機械			1		ĺ																					2
生 本 12 12	1		<u> </u>	1	1		-			1		1						<b> </b>						-		2
産業技術			<del>                                     </del>	1	1		_1																			2
産業技術 システム機械 自動制御							1																			2
産業技術 システム機械 自動制御 情報通信工学	1									_			-					-				-				- 4
産業技術 システム機械 自動制御 情報通信工学	1						1	1					1				1									2
産業技術 システム機械 自動制御 情報通信工学 数理情報 生活工学	1						1	1					1		1		1									2 2 2
産業技術 システム機械 自動制御 情報通信工学 数理情報 生活工学	1		1		1	4	1	1					1		1		1									2 2 2 2
産業技術 システム機械 自動制御 情報通信工学 数理情報 生活工学	1		1		1	1	1	1					1		1		1								1	2 2 2 2 2 2
産業技術 システム機械 目動制御 情報通信工学 数理情報 を発生しています。	1 2		1		1	1	1	1					1		1		1								1	2 2 2 2

廃止学科名	H13年 度以降	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
テキスタイル工学 テキスタルデザイン工学						1		1					1		1											2
デザイン工学 電気・情報技術							1						1		1				1							2
電気・電子 土木地質		1		1	1																				1	3
プロダクトデザイン モダンクラフト ものづくり			2											1	1											2
楽業		1						1						1			1								1	3 2
機械・エネルギー 機械・建築システム																								1	1	1
福祉生産システム 機械電気システム 建築インテリア 教育情報																								1		1
建築インテリア 教育情報																								1		1
建築土不 雪母システム																								1		1
産業システム 生活文化																							1			H
産業システム 産業システム 生活文化 先端技術システム IT工学 ロボット工学						1												1					1		0	1
機械制御 メカニカルテクノロジー						1	1				1														4	1
情報繊維							1													1						1
情報繊維 建設設備 キャリア技術															1					1					1	2
I類 Ⅲ類															1											1
<u>田</u> 類 印刷 インテリアデザイン					1								1		1											1
漆芸			1				1																			1
運輸 エネルギー技術 エレクトロメカニクス							1												1							1
周苹科学						1	1																			1
応用化学 応用デザイン カー・テクニカル						1								1												1
開発士木 科学技術	1					1								1												1
1717-11'/// r ''						1												1								1
環境エネルギー 環境クリエイト 環境工学系列							1	1										1								1
大変   大変   大変   大変   大変   大変   大変   大変			1					1																		1
機械設備システム			1				1																			1
機械設備システム機械デクノロジー 機械テクノロジー系列 機械デクノロジー系列 機械プランニング 機械系							1	1										1								1
機械系機関							1											1							4	4
エンジニアリング機械 機械・ロボット							1																		1	1
機械・土木 工業テクノロジー 生産工学																									1	1
<u>车產工学</u> 商工																									1	Ħ
白動車丁学情報機械								1																	1	1
京都伝統産業金属工芸クラフト			1																1						1	$\frac{1}{2}$
建築・木材 建築・機械・電気・土木															1										1	1
建築システム 建築テクノロジー	1													1											-	1
<u>原動機械</u> 丁学工箱			1					1																		1
工学Ⅱ類 工業1群 工業2群								Ī							1											1
															1											$\frac{1}{1}$
航空車両整備 高分子技術	1																	1								$\frac{1}{1}$
新空車両整備 高分子技術 高分子工学 国際工学 国際情報技術	1																1									$\frac{1}{1}$
					1					1																1
コンピュータ情報技術 材料・設備					1												1									1
オオ料システム									1		1														1	1 2
産業工学 産業工学 産業革新																			1						1 1	2 1
色楽化学 システム技術							1	_11																		1
システム工業システム情報														1	1											1
自然科学 自動車エンジニア 自動車整備科							1																			1
日期里コース								1																	1	1
機械科自動車コース 自動車系列学																									1	1
住環境工学 住居デザイン 情報機械										1				1												1
情報機械 情報システム工学 情報処理								1							1										1	2 1
情報電気							1	-		1																1
情報マルチメディア 情報理数 ほ親判例システル														1											1	
情報制御システム 情報工学																									1	1

H 1 W 6V	-	H13年			* * * 4 .0		****	****					* * 0 .							-			-				
廃止学科	名	度以降	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
情報総合 食品化学			<u> </u>	├─	<del>                                     </del>	<u> </u>	<u> </u>	$\vdash$	<del>                                     </del>	<u> </u>	<u> </u>	$\vdash$									-			$\vdash \vdash \vdash$		1	+
食部化学 数理環境 数理システム 制御、ユニュ									1																	$\blacksquare$	1
制御								1																			士
制御ンステム 生産機械			<u> </u>	├─	<del>                                     </del>		1	┝─┤	$\vdash$	<del>                                     </del>														$\vdash \vdash \vdash$			+
生物科学 製薬技術							Ļļ																				丰
製象技術 繊維								1																			1
繊維工業 繊維工業 繊維デザイン						1		1																		1	2
染織デザイン																				1							1
総合情報 総合電気				<del>                                     </del>	<del>                                     </del>		<del>                                     </del>	$\vdash$	$\vdash$								1										$\frac{2}{1}$
戦ポアザイン 総合合言報 総合合言電気電子シ 急材化学 地域産業コース 電気・電子機能を 地域産業コース 電気・電子機能を 地域産業コース	⁄ステム			<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	igwdap	1								1									$\vdash$	干
素材化学		1															1										工
地域産業 地域産業コース				<del>                                     </del>	<del>                                     </del>		<del>                                     </del>	$\vdash \vdash \vdash$	$\vdash$	11																1	1
墨色 (2)		1										1														$\blacksquare$	1
<u>電気工</u> 学		1					1																				士
電気応用システム	<u>ل</u>			<u> </u>	<del>                                     </del>		<u> </u>		1	<u> </u>								1						<del>                                     </del>		-	1
車気化学 電気工学 電気応用システ、 電気設備 電子・電気 電子・電気				$\sqsubseteq$	$\sqsubseteq$	匚	1	$\blacksquare$	1	$\vdash$	匚							_									1
電子コミュニケー																			1								
雷子诵信				$\vdash$		$\vdash$	$\vdash$	ᄪ	1		$\vdash$	H									$\vdash \exists$			$\Box$		1	1
電子機械コース 電子電気 陶器科学技術 都市デザイン				$\vdash$		Ę		$\Box$																		1	1
<u> 陶器科字技術</u> 都市デザイン					<del>                                     </del>	1		$\vdash \vdash \vdash$																			1
人間社会 メカトロ機械		1						1																		$\Box$	1
薬学		1							1																		<u> </u>
薬学 薬品科学 工業化学系学 やまがた創造工			$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	1	$\vdash \vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash \vdash$				<u> </u>					$\vdash$			$\vdash \vdash \vdash$		1	1
やまがた創造工	学														1												1
ユニバーサルデ 理工科	サイン			-	<del>                                     </del>			$\vdash$	1									11									1
機械加工																											
建築技術 環境サイエンス 機械創造 機械創造工学																										1	1
機械創造			<u> </u>	├─	<del>                                     </del>		<del>                                     </del>	┝─┤	$\vdash$	<del>                                     </del>														$\vdash \vdash \vdash$		2	2
<b>燃燃</b> 技術·電気技術	・住環境																									1	그
機械·電気系学 生産技術系列学	5																									1	士
電子情報工学 土木防災				<u> </u>	<del>                                     </del>		<u> </u>		$\vdash$	<u> </u>														<del>                                     </del>		-	
雪ヱロボット																										$\blacksquare$	
都市環境工学 都市環境 環境テクノロジー 環境設備工学 数理工学				<u> </u>																						1	1
環境テクノロジー 環境設備工学	-系列			<u> </u>	<del>                                     </del>		<u> </u>		$\vdash$	<u> </u>														<del>                                     </del>		1	1
数理工学 、	= )																									1	
エネルギーシス	14																										
デザイン工学	<i></i>							$\vdash$	$\vdash$			$\vdash$												$\vdash \vdash \vdash$		$\vdash$	
グラフィックデザル 環境化学システ、 バイオとかがく系	<u> </u>																										_
<u>ハイオとかかく糸</u> 工芸	刘字		$\vdash$	一	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash \vdash$		$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$				L										1	<u> </u>
工芸 産業創造 産業創造系学				F		F		尸			F	尸									H			戸		1	1
<b>建筑和市</b> 十空			=									$\square$															
建築設備 情報デザイン 建築設備工学			$\vdash$	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	$\vdash$	$\vdash \vdash$	$\vdash \vdash$	$\vdash$	<del>                                     </del>	$\vdash \vdash$									$\vdash$			$\vdash$		1	1
建築設備工学 建築工業																										1	1
建築探究																										1	1
建築インテイリア CAD・ものづくり系列・自動	創造		$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash \vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash \vdash$				<u> </u>					$\vdash$			$\vdash \vdash \vdash$		1	1
教養, 生活科学:	系列学			$\sqsubseteq$						=																1	1
<u>住システム工学</u> 映像表現 キャリアデザイン												oxdot														1	
技を壓く				F		F		尸			F	尸									H			戸		1	1
生活教養と情報			=									$\square$														1	丰
生活教養と情報 機械工学科群 建設工学科群			$\vdash$	├─	<del>                                     </del>	<del>                                     </del>	$\vdash$	$\vdash\vdash\vdash$	<del></del>	$\vdash$	<del>                                     </del>	${oxdot}$				-	-				$\vdash \vdash$			$\vdash\vdash\vdash$		1	1
建梁、郁田上子	个十七十																									1	1
建築デザイン科環境 工業進学																										1	<u> </u>
産業情報科工業食品サイエンス科・キャ			$\vdash$	$\vdash$		$\vdash$	lacksquare	屽	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	尸									$\vdash \Box$			$\Box$		1	1
電気・電子工学	科群			$\vdash$				$\Box$																		1	
電気系学 都市・建築科			$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash$	$\vdash \vdash$				-					$\vdash \vdash$			$\vdash\vdash\vdash$		1	1
都市防災技術																										1	1
基礎工学 工業探究																										1	1
建設工業			1		. —	. —				. —	. —		_									. —		. —		1 1	1
<del>建取工業</del> 合 言	+	165	98	108	50	111	154	123	120	38	43	28	49	51	61	70	91	35	37	25	41 1421	50	27	61	61	113	

# 教育課程委員会 年度別調査項目一覧表

年 度	調査項目	調査対象
平成 24 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 25 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 26 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 27 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 28 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 29 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
平成 30 年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和元年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和2年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和3年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和4年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和5年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和6年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査
令和7年度	「教育課程」に関する調査 1 教育課程について 2 学校改革について 3 産学連携・地域連携について 4 学習指導・評価につい	悉皆調査